

Ⅱ 専門支持科目

フィジカルアセスメント	1
臨床薬理学	4
看護学研究法特論	7
看護学理論特論	10
看護政策論	13
看護教育学	15
看護学倫理	18
コンサルテーション論	21
健康政策・関係法特論	23
原著講読特論	25
生体機能看護学特論	28
臨床動作解析学特論	30
発達障がい理学療法学特論	33
理学療法臨床推論特論	36
精神障がい作業療法学特論	39
身体障がい作業療法学特論	41
高齢期作業療法学特論	43
生活援助工学特論	46
地域リハビリテーション学特論	48

授業科目	フィジカルアセスメント	科目英語表記	Physical assessment		
職名、担当教員氏名	教 授 沼澤さとみ 教 授 菊池 昭夫 非常勤講師 青柳 優 非常勤講師 八巻 通安 非常勤講師 川村 一郎 非常勤講師 鈴木 武文 非常勤講師 今田 恒夫 非常勤講師 石川 朗 非常勤講師 阪西 通夫				
科目責任者氏名	沼澤さとみ				
学内連絡教員氏名	沼澤さとみ				
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門支持	必修・選択の別	CNS 必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	専門看護師としての高度実践看護に必要なフィジカルアセスメントの基礎的知識と技術について学習する				
到達目標	1. フィジカルアセスメントの基本的な技法を理解する 2. 客観的な身体情報を得るためのフィジカルイクザミネーション、評価方法を理解する 3. 緊急度や重症度、必要なケアについて判断するためのアセスメントについて実践事例を用いて説明できる				
成績評価方法	授業内のディスカッションへの参加度 70% 目標1・2を評価 レポート 30%：目標3を評価				
成績評価基準	到達目標1・2・3について、授業内のディスカッション参加状況とレポートをもとに以下の基準で評価します 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない				
授業形式	講義				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	フィジカルアセスメント総論	医療面接 病歴聴取	講義	学習内容に関して、現在臨床での確なアセスメントが必要、あるいはアセスメントが困難なことなどを考えてまとめておく。 学習内容に関する解剖生理、疾患、症状、検査などについて自己学習する。	沼澤
2	フィジカルアセスメント総論	基本技法（視診、触診、打診、聴診） バイタルサインズ	講義	学習内容に関して、現在臨床での確なアセスメントが必要、あるいはアセスメントが困難なことなどを考えてまとめておく。 学習内容に関する解剖生理、疾患、症状、検査などについて自己学習する	沼澤
3	頭頸部・感覚器のアセスメント	頭部・顔面の診察、眼・耳・鼻の診察、唾液腺・口腔・咽頭の診察、頭頸部リンパ節の触診 視覚、聴覚、嗅覚、鼻腔、咽喉頭のアセスメント	講義	学習内容に関して、現在臨床での確なアセスメントが必要、あるいはアセスメントが困難なことなどを考えてまとめておく。 学習内容に関する解剖生理、疾患、症状、検査などについて自己学習する	青柳

4	摂食・嚥下のアセスメント	摂食・嚥下に関する解剖 摂食・嚥下機能の評価方法	講義	学習内容に関して、現在臨床での確なアセスメントが必要、あるいはアセスメントが困難なことなどを考えてまとめておく。 学習内容に関する解剖生理、疾患、症状、検査などについて自己学習する	青柳
5	脳神経系のアセスメント	体位と姿勢、精神状態、四肢の視診 筋委縮、筋トーン、知覚検査、表在反射、深部反射、クローヌスの診察法等	講義	学習内容に関して、現在臨床での確なアセスメントが必要、あるいはアセスメントが困難なことなどを考えてまとめておく。 学習内容に関する解剖生理、疾患、症状、検査などについて自己学習する	菊池
6	呼吸器系のアセスメント	胸部の視診・触診・打診。呼吸音の聴取 呼吸に関する検査等	講義	学習内容に関して、現在臨床での確なアセスメントが必要、あるいはアセスメントが困難なことなどを考えてまとめておく。 学習内容に関する解剖生理、疾患、症状、検査などについて自己学習する	八巻
7	循環器系のアセスメント	四肢・頸部の視診・触診・聴診、胸部視診・触診・打診 心音聴取 循環器に関する検査データ	講義	学習内容に関して、現在臨床での確なアセスメントが必要、あるいはアセスメントが困難なことなどを考えてまとめておく。 学習内容に関する解剖生理、疾患、症状、検査などについて自己学習する	八巻
8	消化器系のアセスメント	腹部のアセスメント 問診、腹部の視診・触診・聴診・打診、腹水の評価など 消化器の画像診断、消化器症状の緊急度の判断	講義	学習内容に関して、現在臨床での確なアセスメントが必要、あるいはアセスメントが困難なことなどを考えてまとめておく。 学習内容に関する解剖生理、疾患、症状、検査などについて自己学習する	鈴木
9	消化器系	下部消化管（直腸・肛門）の解剖生理 直腸・肛門の診察方法 下部消化管の疾患、肛門部の病変、便通異常等	講義	学習内容に関して、現在臨床での確なアセスメントが必要、あるいはアセスメントが困難なことなどを考えてまとめておく。 学習内容に関する解剖生理、疾患、症状、検査などについて自己学習する	川村
10	腎・泌尿器系のアセスメント	腎臓の機能 体液の異常、浮腫、尿量の異常 腎機能の検査	講義	学習内容に関して、現在臨床での確なアセスメントが必要、あるいはアセスメントが困難なことなどを考えてまとめておく。 学習内容に関する解剖生理、疾患、症状、検査などについて自己学習する	今田
11	骨・関節・筋系のアセスメント	問診・視診・触診・打診 関節可動域測定、徒手筋力テスト	講義	学習内容に関して、現在臨床での確なアセスメントが必要、あるいはアセスメントが困難なことなどを考えてまとめておく。 学習内容に関する解剖生理、疾患、症状、検査などについて自己学習する	石川
12	骨・関節・筋系のアセスメント	問診・視診・触診・打診 関節可動域測定、徒手筋力テスト	講義	学習内容に関して、現在臨床での確なアセスメントが必要、あるいはアセスメントが困難なことなどを考えてまと	石川

				めておく。 学習内容に関する解剖生理、 疾患、症状、検査などについて 自己学習する	
13	女性生殖器のアセスメント	産婦人科疾患の症状 産婦人科疾患の診察方法	講義	学習内容に関して、現在臨床 での確なアセスメントが必要、 あるいはアセスメントが困難な ことなどを考えてまとめておく。 学習内容に関する解剖生理、 疾患、症状、検査などについて 自己学習する	阪西
14	事例に基づくフィジカルアセスメントの 実際	事例を用いて対象のフィジカル アセスメントと健康問題について 検討	看護実践で経験している事例 についてのフィジカルアセス メントについてレポート作成		沼澤
15	フィジカルアセスメントの 実際・まとめ	事例に基づくフィジカルアセ スメントと健康問題	看護実践で経験している事例 についてのフィジカルアセス メントについてレポート作成		沼澤
日付					
集中講義 (後日連絡)					

教科書	特になし
参考書	参考図書（以下のうちから、またはフィジカルアセスメントに関する図書から自分で選んで1冊を持っていることを勧めます） ・藤崎郁：フィジカルアセスメント完全ガイド第3版，学研，2017. ・山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック第2版，医学書院，2011. ・古谷伸之編：診察と手技がみえるVol.1第2版，メディックメディア，2007 ・福井次矢，井部俊子監修：ベイツ診察法第2版，メディカル・サイエンス・インターナショナル，2015.
ディプロマ・ ポリシーとの 関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある 教員	
実務経験をい かした教育内 容	
教員の連絡先	沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	臨床薬理学	科目英語表記	Clinical Pharmacology		
職名、担当教員氏名	教授 蓬田 伸一				
科目責任者氏名	蓬田 伸一				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門基礎	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	<p>臨床の現場で遭遇する種々の病態がどのようなメカニズムにより発現するのか、またその症状を改善するためにはどのような薬物療法を行えば良いのか、薬物の薬理作用に基づいて解説する。また、薬物を使用した際に注意すべき副作用についても講義する。</p> <p>この講義では、循環器系、呼吸器系、内分泌系、消化器系、腎・血液・造血器系、代謝系、炎症・アレルギーに作用する薬物に関する基本的知識、人体に疾患を生じる細菌・ウイルスなどに対する薬物の作用機序を理解し、抗菌薬などに関する基本的知識を修得することを目指す。</p>				
到達目標	<p>次の項目について説明できる：</p> <p>○代表的なアレルギー疾患治療薬の作用機序および主な副作用 ○代表的な抗炎症薬の作用機序および主な副作用 ○代表的な鎮咳・去痰薬の作用機序および主な副作用 ○代表的な気管支喘息治療薬の作用機序および主な副作用 ○代表的な抗不整脈薬の作用機序および主な副作用 ○代表的な心不全治療薬の作用機序および主な副作用 ○代表的な虚血性心疾患治療薬の作用機序および主な副作用 ○代表的な高血圧症治療薬の作用機序および主な副作用 ○利尿薬の作用機序および主な副作用 ○代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬の作用機序および主な副作用 ○代表的な制吐薬の作用機序および主な副作用 ○代表的な止血薬・抗血栓薬・造血薬の作用機序および主な副作用 ○代表的な糖尿病治療薬の作用機序および主な副作用 ○代表的な高脂血症治療薬の作用機序および主な副作用 ○代表的な感染症治療薬の作用機序および主な副作用 ○代表的な抗腫瘍薬の作用機序および主な副作用</p>				
成績評価方法	講義内容全般に関する筆記試験を実施する。満点の6割以上の得点を合格とし、6割未満の場合は再試験を一回に限り実施する。				
成績評価基準	<p>特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる</p> <p>優れている； 根拠をふまえて論理的に説明できる</p> <p>良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明できる</p> <p>最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる</p> <p>目標に到達していない； 説明できない</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	臨床薬理学総論	医薬品の剤形 医薬品の安全性情報 新薬の開発 薬害	講義	配付した資料で知識の定着を確認する。 「生体機能学Ⅰ」「病理学」などの専門科目との関連を確認する。	蓬田
2	炎症性疾患治療薬	抗炎症薬①	講義	配付した資料で知識の定着を確認する。 「生体機能学Ⅰ」「病理学」などの専門科目との関連を確認する。	蓬田
3	炎症性疾患治療薬	抗炎症薬② 抗アレルギー薬	講義	配付した資料で知識の定着を確認する。 「生体機能学Ⅰ」「病理学」などの専門科目との関連を確認する。	蓬田
4	呼吸器系疾患治療薬	気管支喘息治療薬 鎮咳薬・去痰薬	講義	配付した資料で知識の定着を確認する。 「生体機能学Ⅰ」「病理学」などの専門科目との関連を確認する。	蓬田
5	循環器系疾患治療薬①	抗高血圧薬 抗狭心症薬	講義	配付した資料で知識の定着を確認する。 「生体機能学Ⅰ」「病理学」などの専門科目との関連を確認する。	蓬田

6	循環器系疾患治療薬②	抗不整脈薬 強心薬	講義	配付した資料で知識の定着を確認する。 「生体機能学Ⅰ」「病理学」などの専門科目との関連を確認する。	蓬田
7	腎臓作用薬	利尿薬	講義	配付した資料で知識の定着を確認する。 「生体機能学Ⅰ」「病理学」などの専門科目との関連を確認する。	蓬田
8	血液疾患治療薬①	貧血治療薬	講義	配付した資料で知識の定着を確認する。 「生体機能学Ⅰ」「病理学」などの専門科目との関連を確認する。	蓬田
9	血液疾患治療薬①	抗凝血薬 抗血小板薬	講義	配付した資料で知識の定着を確認する。 「生体機能学Ⅰ」「病理学」などの専門科目との関連を確認する。	蓬田
10	消化器系疾患治療薬①	消化性潰瘍治療薬	講義	配付した資料で知識の定着を確認する。 「生体機能学Ⅰ」「病理学」などの専門科目との関連を確認する。	蓬田
11	消化器系疾患治療薬②	制吐薬 下剤	講義	配付した資料で知識の定着を確認する。 「生体機能学Ⅰ」「病理学」などの専門科目との関連を確認する。	蓬田
12	代謝性疾患治療薬①	高脂血症治療薬	講義	配付した資料で知識の定着を確認する。 「生体機能学Ⅰ」「病理学」などの専門科目との関連を確認する。	蓬田
13	代謝性疾患治療薬②	糖尿病治療薬	講義	配付した資料で知識の定着を確認する。 「生体機能学Ⅰ」「病理学」などの専門科目との関連を確認する。	蓬田
14	化学療法薬	感染症治療薬 抗腫瘍薬	講義	配付した資料で知識の定着を確認する。 「生体機能学Ⅰ」「病理学」などの専門科目との関連を確認する。	蓬田
15	講義のまとめ	講義のまとめ	講義	配付した資料で知識の定着を確認する。 「生体機能学Ⅰ」「病理学」などの専門科目との関連を確認する。	蓬田

日付

毎週火曜日 6 限目

教科書	今日の治療薬-解説と便覧- (最新版), 南江堂
参考書	渡邊泰秀ほか編: コメディカルのための薬理学 (第3版), 朝倉書店, 2018 (前期開講の「薬理学」で教科書に指定しています) 吉岡充ほか著: 薬理学14版: 系統看護学講座専門基礎分野, 医学書院, 2018 町谷安紀著: イラストで理解するかみくだき薬理学, 南山堂, 2018
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護3
先修条件指定科目	非該当

先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	蓬田伸一：研究室16 syomogida@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	看護学研究法特論		科目英語表記	Advanced nursing research	
職名、担当教員氏名	教授 遠藤 和子 教授 桂 晶子 准教授 半田 直子				
科目責任者氏名	遠藤 和子				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門支持	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	看護実践の質の向上や援助方法の開発に必要な研究について、研究プロセス、研究倫理、主要な研究方法とその概要の理解を深めること、既存の文献を批判的に分析（吟味）することを通して、実践の場において看護研究を遂行し、研究の成果を活用する能力を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義と目的、論理的思考(具体－抽象)について説明できる 2. 科学として、看護実践から看護の理論、哲学・知を産出することの意義について説明できる 3. 看護現象を研究する上での倫理的な問題について知り、看護の専門家としての対応について考えることができる 4. 主要な研究アプローチ方法について知り、それぞれの特徴と主要な用語について説明できる 5. 研究デザインについて説明できる 6. 研究枠組み、理論・概念枠組みと仮説について説明できる 7. 自己のテーマに関連した研究論文の主旨と構造を読みとり説明できる 8. 文献を批判的に分析、吟味できる 9. 自己のテーマに関連した研究と実践の連関を説明できる 				
成績評価方法	方針：積極的参加による講義内容の理解を重視する 方法：課題レポートは講義の中で提示する 基準：課題の達成度50%、討議への参加度50%				
成績評価基準	各到達目標について、 特に優れている； 適切で十分な根拠を踏まえて論理的に説明できる 優れている； 根拠を踏まえて論理的に説明できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない； 説明できない				
授業形式	対面もしくは遠隔授業（状況により受講生と相談の上、決定します）				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	ガイダンス 看護研究の意義・目的 科学的アプローチとは	授業の進め方 討議：看護研究が科学である にはどうあることが必要か	講義	既存の文献などを用いて根拠を示す	遠藤和
2	看護理論 哲学・知を産出することの意義	討議：「看護の知」を産出することの今日的意義について	講義、ディスカッション	「臨床の知」「実践知」を扱った本を読み根拠に用いる	遠藤和
3	研究のプロセスと倫理的問題	討議2：看護学領域の研究のプロセスに付随した倫理的問題を報告し、対応について議論する	ディスカッション	倫理的問題の解決に当たる根拠を示す	遠藤和
4	質的研究1 研究方法の選択用語	質的な研究の発展の歴史と種類、哲学的基盤、研究デザイン 面接調査とインタビュー、記述データ	講義	自己の研究課題についてまとめる	遠藤和
5	質的研究2 研究のプロセス	質的研究手法に応じ、看護実践に関する文献や既存のデータを用いた演習を交えて解説する	講義	自己の研究課題についてまとめる	遠藤和
6	質的研究3 事例研究	事例検討と事例研究 事例研究のステップについて	講義、ディスカッション	提示された論文を読み込み、議論できるように準備する	遠藤和

		て、看護実践に基づく知見を示す研究論文を読み、デザインと論文の構造を読み取り報告した上で比較検討する			
7	質的研究4 事例研究	事例検討と事例研究 事例研究のステップについて、看護実践に基づく知見を示す研究論文を読み、デザインと論文の構造を読み取り報告した上で比較検討する	講義、ディスカッション	提示された論文を読み込み、議論できるように準備する	遠藤和
8	量的研究1 研究デザイン	量的なアプローチの研究デザイン、非実験的（観察的）研究質問紙調査を中心に、看護実践の場に還元できる研究的視点や研究活動について、具体的な研究の知見や既存のデータを用いた演習を交えて解説する	講義、ディスカッション	事前に提示された論文に対して報告用資料を作成し、講義中に発表する準備をする	桂
9	量的研究2 研究枠組み、概念枠組みと仮説	量的なアプローチの研究デザイン、非実験的（観察的）研究質問紙調査を中心に、看護実践の場に還元できる研究的視点や研究活動について、具体的な研究の知見や既存のデータを用いた演習を交えて解説する	プレゼンテーション、ディスカッション	事前に提示された論文に対して報告用資料を作成し、講義中に発表する準備をする	桂
10	トランスレーショナルリサーチ	褥瘡に関して細胞・動物を使った基礎研究を踏まえた臨床での介入研究	講義	資料を読みこみ、議論できるように準備する	スポット：東京大学大学院医学系研究科 老年看護学／創傷看護学分野 教授 仲上豪二朗 遠藤和
11	トランスレーショナルリサーチ	褥瘡に関して細胞・動物を使った基礎研究を踏まえた臨床での介入研究	講義	資料を読みこみ、議論できるように準備する	スポット：東京大学大学院医学系研究科 老年看護学／創傷看護学分野 教授 仲上豪二朗 遠藤和
12	量的研究3 解析法の整理	量的なアプローチの研究デザイン、非実験的（観察的）研究質問紙調査を中心に、看護実践の場に還元できる研究的視点や研究活動について、具体的な研究の知見や既存のデータを用いた演習を交えて解説する	プレゼンテーション、ディスカッション	事前に提示された論文に対して報告用資料を作成し、講義中に発表する準備をする	桂
13	実験研究1 研究デザイン	実験研究と看護、研究デザイン、実験研究の長所と短所、生体機能の測定方法・測定機器、実験研究の倫理等について解説する	講義	事前に提示された論文や資料を読み、議論の準備をする	半田
14	実験研究2 実験研究のプロセス	実験研究の論文を読み議論する 実験機器を使用して実験を行いながら解説する	講義、演習	事前に提示された論文や資料を読み、議論の準備をする	半田
15	実験研究3 実験研究のプロセス	実験研究の論文を読み議論する 実験機器を使用して実験を行いながら解説する	講義、演習	事前に提示された論文や資料を読み、議論の準備をする	半田

日付

6.4.15 (月) 6
6.4.22 (月) 6
6.5.13 (月) 6
6.5.20 (月) 6
6.5.27 (月) 6
6.6. 3 (月) 6
6.6.10 (月) 6
6.6.17 (月) 6

6.6.24 (月) 6
 6.6.29 (土) 3-4
 6.7. 1 (月) 6
 6.7. 8 (月) 6
 6.7.22 (月) 6
 6.7.29 (月) 6

教科書	
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. バーンズ&グローブ, 黒田裕子他翻訳:看護研究入門—実施・評価・活用, エルゼア・ジャパン株式会社, 2007. 2. D. F. Polit & C.T. Beck著、近藤潤子監訳: 看護研究 原理と方法 第2版, 医学書院 2010 3. 黒田裕子: 黒田裕子の看護研究step by step 第5版, 医学書院, 2017. 4. 高木廣文、林邦彦: エビデンスのための看護研究の読み方・進め方, 中山書店, 2006. 5. 操華子他訳: 研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法—, 日本看護協会出版会, 2007. 6. 牧本清子編: エビデンスに基づく看護実践のための システマティックレビュー, 日本看護協会出版会, 2013. 7. 山川みやえ他編: よく解る看護研究論文のクリティーク, 日本看護協会出版会, 2014. <p>その他、適宜提示する。</p>
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	遠藤和子: 研究室13 kaendo@yachts.ac.jp 桂 晶子: 研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp 半田直子: 研究室 3 nhanda@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	看護学理論特論	科目英語表記	Advanced nursing theory		
職名、担当教員氏名	教授 遠藤 和子 教授 桂 晶子 教授 安保 寛明 教授 菊地 圭子 准教授 鈴木 育子				
科目責任者氏名	遠藤 和子				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野／理学療法学分野／作業療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門支持	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	看護理論の発展経緯および高度な看護実践を行うための根幹となる理論を理解し、主要な理論の知見を具体的な看護実践に活用していくことを学ぶ。				
到達目標	1. 理論開発の歴史と意義、方法について説明できる。 2. 高度な看護実践に必要な主な中範囲理論、実践理論の概要・実践での活用法について説明できる。 3. 有用な理論の理解を深め、看護実践の向上へつなげることができる。				
成績評価方法	ディスカッションへの参加状況 (20%)、プレゼンテーション (60%)、レポート授業態度 (20%)				
成績評価基準	各到達目標について、 特に優れている； 適切で十分な根拠を踏まえて論理的に説明できる 優れている； 根拠を踏まえて論理的に説明できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない； 説明できない				
授業形式	対面授業 受講者と相談の上 遠隔授業も考慮する				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	看護理論とは何か	看護理論とは何か、看護理論の前提・意義	講義	授業の際に指示する	遠藤 (和)
2	看護理論の歴史的発展	米国における看護理論の開発 看護理論の歴史的発展と現状	講義とディスカッション	事前学習；授業で使用する英文献を精読する 事後学習；5回目、6回目のプレゼンテーションの準備をする	菊地
3	看護実践・理論・研究の関連性	看護実践と理論・研究の関連性	講義とディスカッション	自己の関心のある看護理論家の著作を読んでくる	遠藤 (和)
4	看護専門職と看護理論	専門職における看護理論の活用 の必要性とその限界	講義	自己の関心のある看護理論家の著作を読んでくる	遠藤 (和)
5	代表的な理論と看護実践における理論の活用 (事例展開)	看護の基本に関する理論と看護実践への活用 ニード論、ケアリング	プレゼンテーションとディスカッション	事前学習；プレゼンテーションの準備をする	菊地
6	代表的な理論と看護実践における理論の活用 (事例展開)	看護の基本に関する理論と看護実践への活用 ニード論、ケアリング	プレゼンテーションとディスカッション	事前学習；プレゼンテーションの準備をする	菊地
7	代表的な理論と看護実践における理論の活用 (事例展開)	看護実践に関する理論と看護実践への活用 危機理論、適応理論、セルフケア理論 病みの軌跡	講義とディスカッション	理論を活用し自己の実践事例を分析してくる	遠藤 (和)
8	代表的な理論と看護実践における理論の活用 (事例展開)	看護実践に関する理論と看護実践への活用 危機理論、適応理論、セルフケア理論 病みの軌跡	講義とディスカッション	理論を活用し自己の実践事例を分析してくる	遠藤 (和)

9	代表的な理論と看護実践における理論の活用（事例展開）	人間の心理に関する理論と看護実践への活用 不安理論、悲嘆理論、ストレス・コーピング理論、レジリエンス理論、自己効力感		第9回に第10回のプレゼンテーション課題を告知する	安保
10	代表的な理論と看護実践における理論の活用（事例展開）	人間の心理に関する理論と看護実践への活用 不安理論、悲嘆理論、ストレス・コーピング理論、レジリエンス理論、自己効力感		第9回に第10回のプレゼンテーション課題を告知する	安保
11	代表的な理論と看護実践における理論の活用（事例展開）	家族に関する理論と看護実践への活用 家族論、家族発達理論、家族システム論	講義	自己の経験した事例の振り返り	鈴木
12	代表的な理論と看護実践における理論の活用（事例展開）	家族に関する理論と看護実践への活用 家族論、家族発達理論、家族システム論	プレゼンテーションをもとにした討議	プレゼンテーション準備	鈴木
13	代表的な理論と看護実践における理論の活用（事例展開）	健康に関する理論と看護実践への活用 ヘルスピリーフモデル（保健信念モデル） 保健行動理論	プレゼンテーションとディスカッション	理論を活用し自己の実践事例を分析してくる	桂
14	代表的な理論と看護実践における理論の活用（事例展開）	健康に関する理論と看護実践への活用 ヘルスピリーフモデル（保健信念モデル） 保健行動理論	プレゼンテーションとディスカッション	理論を活用し自己の実践事例を分析してくる	桂
15	まとめ	上記での学びを基に各自、自己の専門的職務において看護理論の看護実践へ具体的活用について討議する。	ディスカッション		遠藤(和)

日付

6.4.18(木)7 第8講義室
6.4.25(木)7 第8講義室
6.5. 2(木)7 第8講義室
6.5. 9(木)7 第8講義室
6.5.16(木)7 第8講義室
6.5.23(木)7 第8講義室
6.5.30(木)7 第8講義室
6.6. 6(木)7 第8講義室
6.6.13(木)7 第8講義室
6.6.20(木)7 第8講義室
6.6.27(木)7 第8講義室
6.7. 4(木)7 第8講義室
6.7.11(木)7 第8講義室
6.7.18(木)7 第8講義室
6.7.25(木)7 第8講義室

教科書	
参考書	授業中に提示する
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	遠藤：研究室13 kaendo@yachts.ac.jp 桂：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 安保：研究室15 hambo@yachts.ac.jp 鈴木：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp

菊地：研究室5 kkikuchi@yachts.ac.jp

備考

授業科目	看護政策論	科目英語表記	Nursing policy		
職名、担当教員氏名	教授 菅原 京子				
科目責任者氏名	菅原 京子				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門支持	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	今日、政策提言のできる看護職が求められている。しかし、政策形成は段階ごとに順を追っては進行せず、また、ステークホルダー(利害関係者)の存在もあり、看護実践における対象者支援の思考とは異なる「政策型思考」を身につける必要がある。本科目では、今日の保健医療福祉政策における看護職の立ち位置を理解し、社会の変化に対応して看護に関する新たな政策提言ができる基礎的能力を育成する。				
到達目標	<p>1-1.政策と制度と法律の関係について説明できる。</p> <p>1-2.法令の読み方を理解できる。</p> <p>1-3.立法政策過程における用語及び代表的理論について説明できる。</p> <p>2-1.地域包括ケアについて医療機能の分化と連携、在宅医療推進の関係性から説明できる。</p> <p>2-2.看護師の人員配置について診療報酬制度と医療法の観点から説明できる。</p> <p>2-3.看護職の資格制度について欧米諸国との比較から説明できる。</p> <p>2-4.看護職の人材確保について看護教育の大学化の観点及び各都道府県の取組の観点から説明できる。</p> <p>2-5.特定行為研修についてチーム医療との関係から説明できる。</p> <p>上記の2-1～5：アジェンダは何か、何故アジェンダとなったのか/ならないのか、ステークホルダーは誰か、アクターは誰かを意識した検討ができる。</p> <p>3.看護実践経験を通して、看護政策課題のアジェンダを1つ設定し、解決に向けた方策を検討できる。</p> <p>4.以上を通して、看護政策の展開における看護専門職の役割について考察できる。</p>				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート (30%)：看護政策論の学びについて、到達目標4を中心に記述してください。 ・発表資料 (30%)：到達目標3の発表内容を評価対象とします。 ・討議への参加 (40%)：討議の場面で、自分の意見を述べているか、他者の意見を踏まえて発展的に思考できているか、を判断基準とします。 				
成績評価基準	<p>到達目標 1-1～2-5</p> <p>特に優れている：内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる</p> <p>優れている：内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる</p> <p>良好である：内容を理解し、論理的に正しく概ね説明できる</p> <p>最低限の到達：一部不十分な所もあるが、ある程度説明できる</p> <p>目標に到達していない：説明できない</p>				
授業形式	対面授業、遠隔授業（応相談）				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	1-1.オリエンテーション、政策と制度と法律の関係	政策・制度・法律の関係	講義	保健師助産師看護師法の予習	菅原
2	1-2.法令の読み方：保健師助産師看護師法を事例として	保健師助産師看護師法を事例として	講義	保健師助産師看護師法の復習	菅原
3	1-3.立法政策過程	アジェンダ、ステークホルダー、アクター、政策の窓モデル	講義、討議	アジェンダの検討	菅原
4	1-3.立法政策過程	アジェンダ、ステークホルダー、アクター、政策の窓モデル	講義、討議	アジェンダの検討	菅原
5	2-1.地域包括ケア	医療機能の分化と連携、在宅医療推進	講義、討議	アジェンダの検討	菅原
6	2-2.看護師の人員配置	医療法と診療報酬制度	講義、討議	アジェンダの検討	菅原
7	2-3.看護職の資格制	日本と欧米諸国の状況、日本	講義、討議	アジェンダの検討	菅原

	度	の特徴			
8	2-3.看護職の資格制度	日本と欧米諸国の状況、日本の特徴	講義、討議	アジェンダの検討	菅原
9	2-4.看護職の人材確保	看護師等の人材確保の促進に関する法律と看護教育の大学化、各都道府県の人材確保の取組	講義、討議	アジェンダの検討	菅原
10	2-4.看護職の人材確保	看護師等の人材確保の促進に関する法律と看護教育の大学化、各都道府県の人材確保の取組	講義、討議	アジェンダの検討	菅原
11	2-5.特定行為研修	看護教育におけるチーム医療と厚生労働省のチーム医療の異同、特定行為研修の意義と課題	講義、討議	アジェンダの検討	菅原
12	2-5.特定行為研修	看護教育におけるチーム医療と厚生労働省のチーム医療の異同、特定行為研修の意義と課題	講義、討議	アジェンダの検討	菅原
13	3.看護政策課題	看護実践経験を通して看護政策課題のアジェンダを1つ設定し、解決に向けた方策を検討する	発表、討議	発表の振り返り	菅原
14	3.看護政策課題	看護実践経験を通して看護政策課題のアジェンダを1つ設定し、解決に向けた方策を検討する	発表、討議	発表の振り返り	菅原
15	4.まとめ	看護政策の展開における看護専門職の役割	討議	全体のまとめ	菅原

日付

毎週水曜日 7 限目

教科書	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・平林勝政ほか編：ナーシング・グラフィカ 看護をめぐる法と制度、メディカ出版、2023 ・田村やよひ：私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法、日本看護協会出版会、2015 ・キングダム著・笠京子訳：アジェンダ・選択肢・公共政策－政策はどのように決まるのか、勁草書房、2017 ・新たな看護のあり方に関する検討会報告書、日本看護協会出版会、2004 ・国民衛生の動向、厚生統計協会 ・看護白書、日本看護協会出版会
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菅原京子：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	看護教育学	科目英語表記	Nursing education		
職名、担当教員氏名	教授 沼澤 さとみ				
科目責任者氏名	沼澤 さとみ				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門支持	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	看護学教育の教育制度や教育課程の特徴と課題、看護教育を行うための教育方法の基本的知識と技能を学習するとともに、「学ぶ」意味と「教える」意味について深く考える。 教師に必要な資質能力や教員の役割について理解する。また、看護教育の課題に関する自分の考えを考察できる。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護教育制度の変遷や看護教育を規定する法規から、看護教育制度の特徴を説明できる。 2. 看護学教育の教育課程と保健師助産師看護師学校養成所指定規則との関係を理解し、教育課程の編成方法について説明できる。 3. 看護教育を行うための教育方法の基本的知識と技能を説明できる。 4. 看護継続教育についてキャリアの概念と関連させて説明できる。 5. 教師に必要な資質能力と看護教育における教員の役割について考察できる。 6. 教育実践上の例を挙げて看護教育の現代的課題について考察できる。 				
成績評価方法	ワーク・ディスカッション・プレゼンテーションなど授業への参加状況（50%）：目標1～4を評価 レポート（50%）：目標5・6を評価				
成績評価基準	<p>目標1～6について、ワーク・ディスカッション・プレゼンテーション、レポートなどをもとに以下の基準で評価する</p> <p>特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる</p> <p>優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる</p> <p>良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる</p> <p>最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる</p> <p>目標に到達していない；説明できない</p>				
授業形式	対面授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	オリエンテーション教育とはなにか	教育の意義、目的 「学ぶこと」と「教えること」	講義・ディスカッション（プレゼンテーション）	学習内容に関する文献や図書を読み、重要事項等をまとめる。 学習内容に関するプレゼンテーションやディスカッションのための資料を作成する。	沼澤
2	教育とはなにか	教育の意義、目的 「学ぶこと」と「教えること」	講義・ディスカッション	学習内容に関する文献や図書を読み、重要事項等をまとめる。 学習内容に関するプレゼンテーションやディスカッションのための資料を作成する。	沼澤
3	看護教育制度	看護教育学の定義 看護教育を規定する法規 看護教育制度の変遷	講義・ディスカッション（プレゼンテーション）	学習内容に関する文献や図書を読み、重要事項等をまとめる。 学習内容に関するプレゼンテーションやディスカッションのための資料を作成する。	沼澤
4	看護教育制度	看護教育学の定義 看護教育を規定する法規 教育制度の変遷	講義・ディスカッション（プレゼンテーション）	学習内容に関する文献や図書を読み、重要事項等をまとめる。 学習内容に関するプレゼンテーションやディスカッションのための資料を作成する。	沼澤

5	看護教育課程	保健師助産師看護師学校養成所指定規則 資質・能力の育成と教育課程	講義・ディスカッション（プレゼンテーション）	学習内容に関する文献や図書を読み、重要事項等をまとめる。 学習内容に関するプレゼンテーションやディスカッションのための資料を作成する。	沼澤
6	看護教育課程	保健師助産師看護師学校養成所指定規則 資質・能力の育成と教育課程	講義・ディスカッション（プレゼンテーション）	学習内容に関する文献や図書を読み、重要事項等をまとめる。 学習内容に関するプレゼンテーションやディスカッションのための資料を作成する。	沼澤
7	継続教育とキャリア	看護師の生涯学習 キャリアに関する諸概念 高度実践看護師の教育制度	講義・ディスカッション（プレゼンテーション）	学習内容に関する文献や図書を読み、重要事項等をまとめる。 学習内容に関するプレゼンテーションやディスカッションのための資料を作成する。	沼澤
8	継続教育とキャリア	看護師の生涯学習 キャリアに関する諸概念 高度実践看護師の教育制度	講義・ディスカッション（プレゼンテーション）	学習内容に関する文献や図書を読み、重要事項等をまとめる。 学習内容に関するプレゼンテーションやディスカッションのための資料を作成する。	沼澤
9	看護教育方法	教育の基本技術、授業方法、アクティブラーニング 成人教育論 授業設計	講義・ディスカッション（プレゼンテーション）	学習内容に関する文献や図書を読み、重要事項等をまとめる。 学習内容に関するプレゼンテーションやディスカッションのための資料を作成する。	沼澤
10	看護教育方法	教育の基本技術、授業方法、アクティブラーニング 成人教育論 授業設計	講義・ディスカッション（プレゼンテーション）	学習内容に関する文献や図書を読み、重要事項等をまとめる。 学習内容に関するプレゼンテーションやディスカッションのための資料を作成する。	沼澤
11	看護教育の場と教員（指導者）の役割	教師像と教師に必要な資質・能力 学校教育での教員の役割、臨地実習での指導者の役割 専門看護師の看護職を対象とした教育	講義・ディスカッション（プレゼンテーション）	学習内容に関する文献や図書を読み、重要事項等をまとめる。 学習内容に関するプレゼンテーションやディスカッションのための資料を作成する。	沼澤
12	看護教育の場と教員（指導者）の役割	教師像と教師に必要な資質・能力 学校教育での教員の役割、臨地実習での指導者の役割 専門看護師の看護職を対象とした教育	講義・ディスカッション（プレゼンテーション）	学習内容に関する文献や図書を読み、重要事項等をまとめる。 学習内容に関するプレゼンテーションやディスカッションのための資料を作成する。	沼澤
13	看護教育の現代的課題	各自の教育実践上の例を挙げて看護教育の現代的課題について考える	プレゼンテーションとディスカッション	学習内容に関する文献や図書を読み、重要事項等をまとめる。 学習内容に関するプレゼンテーションやディスカッションのための資料を作成する。	沼澤
14	看護教育の現代的課題	各自の教育実践上の例を挙げて看護教育の現代的課題について考える	プレゼンテーションとディスカッション	学習内容に関する文献や図書を読み、重要事項等をまとめる。 学習内容に関するプレゼンテーションやディスカッションのための資料を作成する。	沼澤
15	看護教育の現代的課題	各自の教育実践上の例を挙げて看護教育の現代的課題について考える	プレゼンテーションとディスカッション	学習内容に関する文献や図書を読み、重要事項等をまとめる。 学習内容に関するプレゼンテーションやディスカッションのための資料を作成する。	沼澤

日付

教科書	教科書は指定しない
参考書	杉森みど里, 舟島なをみ：看護教育学 第7版, 医学書院. 必要時は資料を配付し、随時文献や図書を紹介します
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	看護学倫理	科目英語表記	Nursing ethics		
職名、担当教員氏名	教授 遠藤 恵子 教授 遠藤 和子 教授 安保 寛明 准教授 鈴木 育子 非常勤 宮坂 道夫				
科目責任者氏名	遠藤 恵子				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野／理学療法学分野／作業療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門支持	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	看護倫理の歴史的背景と主要な理論等を習得し、看護実践で遭遇する倫理的諸問題をチーム医療の体制の中で解決するための具体的な方法論を習得する。看護実践上の倫理的問題事例を取り上げ、事例に応じた最適な方法論を活用し、倫理的意思決定アプローチについて学修する。また、看護の実践者、教育者、研究者としての責任と役割について考究する。				
到達目標	1. 看護倫理の歴史的背景と主要な理論について説明できる。 2. 倫理的問題分析の方法論について類別できる。 3. 看護各領域の実践において生じる倫理的諸問題を分析し、解決するための計画を立案できる。 4. 看護の実践者、教育者、研究者としての責任と役割について説明できる。				
成績評価方法	1. 講義の中で、看護倫理の歴史的背景と現状の問題・課題についての討議を行い、模擬事例に対して倫理的問題分析の方法論を適用する。その中で受講者の理解度を評価する。(30点) 2. 講義の中で、看護各領域の事例を題材に倫理的問題の分析を行い、その中で、倫理的問題を分析し、解決するための計画をどの程度具体的に示せるかを評価する。(35点) 3. 講義の中で、看護の実践者、教育者、研究者としての責任と役割についての討議を行い、その中で受講者の理解度を評価する。(35点)				
成績評価基準	各到達目標について、 特に優れている； 適切で十分な根拠を踏まえて論理的に説明できる 優れている； 根拠を踏まえて論理的に説明できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない； 説明できない				
授業形式	対面授業またはZOOMを用いた遠隔授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	看護倫理の歴史の理解	看護倫理の歴史	講義と討議	テキストの該当ページを読んで講義に臨むこと。	宮坂
2	看護倫理の主要な理論の理解	基本的概念と構造	講義と討議	テキストの該当ページを読んで講義に臨むこと。	宮坂
3	倫理的問題分析の方法論の類別	倫理原則、四分画法	講義と討議	テキストの該当ページを読んで講義に臨むこと。	宮坂
4	倫理的問題分析の方法論の類別	ナラティブ・アプローチ、倫理調整	講義と討議	テキストの該当ページを読んで講義に臨むこと。	宮坂
5	臨床現場における倫理的ジレンマ(事例検討)	成人看護領域：インフォームドコンセント、治療における代理行為、延命	聴講(講義)・グループワーク	当日、課題が提示されます	遠藤(和)
6	臨床現場における倫理的ジレンマ(事例検討)	成人看護領域：インフォームドコンセント、治療における代理行為、延命	ロール・プレイング	役づくりをしてくる	遠藤(和)
7	臨床現場における倫理的ジレンマ(事例検討)	母性・小児看護領域：生殖医療、性自認と性指向、障がい児と人権	講義と討議	第5-11回：個別の指示に従うこと。	遠藤(恵)
8	臨床現場における倫理的ジレンマ(事例検討)	母性・小児看護領域：生殖医療、性自認と性指向、障がい児と人権	講義と討議	第5-11回：個別の指示に従うこと。	遠藤(恵)

9	在宅における倫理的ジレンマ(事例検討)	在宅看護領域：看護師と介護職および看護師と家族間に生じやすい倫理的課題	講義、討議	経験した事例の振り返り	鈴木
10	在宅における倫理的ジレンマ(事例検討)	在宅看護領域：看護師と介護職および看護師と家族間に生じやすい倫理的課題	プレゼンテーションをもとにした討議	プレゼンテーション準備	鈴木
11	臨床現場における倫理的ジレンマ(事例検討)	精神看護領域：自傷・他害行為の防止と隔離・拘束(講義)		第5-11回：個別の指示に従うこと。	安保
12	倫理的問題の分析、解決するための計画の立案	倫理問題分析の方法論の適用による、各自で経験した事例の分析、解決のための計画の立案(発表と討議)	講義と討議	各自で経験した事例について報告すること(必ず個人情報を削除すること)	宮坂
13	倫理的問題の分析、解決するための計画の立案	倫理問題分析の方法論の適用による、各自で経験した事例の分析、解決のための計画の立案(発表と討議)	講義と討議	各自で経験した事例について報告すること(必ず個人情報を削除すること)	宮坂
14	学習の統合	看護の実践者、教育者、研究者としての責任と役割について、倫理的課題への対処方法、看護スタッフの対処能力向上への支援、組織的取り組み、倫理調整などを焦点とした討議(講義と討議)	講義と討議	各自で経験した事例について報告すること(必ず個人情報を削除すること)	宮坂
15	学習の統合	看護の実践者、教育者、研究者としての責任と役割について、倫理的課題への対処方法、看護スタッフの対処能力向上への支援、組織的取り組み、倫理調整などを焦点とした討議(講義と討議)	講義と討議	第12-15回：各自で経験した事例について報告すること(必ず個人情報を削除すること)	宮坂

日付

6.5.9(木)1
6.5.9(木)2
6.5.9(木)3
6.5.9(木)4
6.5.9(木)5
6.5.16(木)6
6.5.23(木)5
6.5.23(木)6
6.5.30(木)5
6.6.6(木)5
6.6.13(木)5
6.7.26(金)1
6.7.26(金)2
6.7.26(金)3
6.7.26(金)4

教科書	医療倫理学の方法 原則、ナラティブ、手順(第3版、医学書院)
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1/博士前期2/博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	宮坂：miyasaka@clg.niigata-u.ac.jp 遠藤(恵)：研究室20 kendo@yachts.ac.jp 遠藤(和)：研究室13 kaendo@yachts.ac.jp

	安 保：研究室15 hambo@yachts.ac.jp 鈴 木：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	コンサルテーション論	科目英語表記	Consultation		
職名、担当教員氏名	安保 寛明 高谷 新				
科目責任者氏名	安保 寛明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門支持	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	コンサルテーションに関する定義や概念、用いられる技法に関する講義や演習をおこなう。				
到達目標	1. コンサルテーションの定義が述べられる 2. コンサルテーションの過程が述べられる 3. コンサルテーションに用いられる基本的な技法が活用できる				
成績評価方法	コンサルテーション演習 (40%) コンサルテーションに関するレポート (60%)				
成績評価基準	<p>コンサルテーションの定義に関する理解力・概念分析力 (評価項目 1、2) 事例をもとにした演習における上記の事項の適格性を、知識・技術の対応から評価する。</p> <p>コンサルテーションの過程に関する記述力 (評価項目 1、3) 事例を通じたアセスメントや実施過程の記述について、コンサルテーションにおける諸理論との整合性の観点から評価する。</p> <p>おおむね 評価S・・・5%以下の改稿 評価A・・・10%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り1か所以内 (演習における技法の誤り1か所以内) 評価B・・・20%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り2か所以内 (同2か所以内) 評価C・・・30%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り3か所以内 (同3か所以内) 評価D・・・30%以上の改稿、キーワードとなる概念の誤り5か所以上 (同5か所以上) とする。</p> <p>指導教員による改訂・改稿を行うなどして、各学習項目に関する的確性の高い記述・理解に関する合意を図る。 レポートは改訂を2度行い、最終的な提出されたレポートについて 詳しい評価の過程は第1回の講義の際に提示する。</p>				
授業形式	講義と演習 (一部でビデオ会議システムを用いた遠隔的な方法を用いる)				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	コンサルテーションの定義	講義	講義と小演習	復習を行うこと。	安保
2	コンサルテーションの過程 (1)	講義	講義と小演習	復習を行うこと。	安保
3	コンサルテーションの過程 (2)	講義	講義と小演習	復習を行うこと。	安保
4	コンサルテーションの技法 (1)	講義	講義と小演習	復習を行うこと。	安保
5	コンサルテーションの技法 (2)		講義と小演習	復習を行うこと。	安保
6	コンサルテーションの技法 (3)	講義と小演習	復習を行うこと。	講義と小演習	安保
7	コンサルテーションの技法 (4)	復習を行うこと。	講義と小演習	復習を行うこと。	安保
8	代表的な場面におけるコンサルテーション (1)	コンサルテーション場面の具体例とその対応	講義と小演習	復習を行うこと。	安保
9	代表的な場面におけるコンサルテーション (2)	コンサルテーションに関する具体例	講義と小演習	復習を行うこと。	安保

10	代表的な場面におけるコンサルテーション (3)	コンサルテーションの具体的な場面とその対応	復習を行うこと。	復習を行うこと。	安保
11	代表的な場面におけるコンサルテーション (4)	コンサルテーションの具体例とその洗練方法	講義と小演習	復習を行うこと。	安保
12	代表的な場面におけるコンサルテーション (5)	コンサルテーションの具体的な場面の実践とその洗練	講義と小演習	復習を行うこと。	安保
13	コンサルテーションとスーパービジョン (1)	コンサルテーションの具体的な場面の洗練	講義と小演習	復習を行うこと。	安保
14	コンサルテーションとスーパービジョン (2)	コンサルテーションの具体的な場面の洗練	講義と小演習	復習を行うこと。	安保
15	コンサルテーションとスーパービジョン (3)	コンサルテーションの具体的な場面の洗練	講義と小演習	復習を行うこと。レポートを課すので精査の上で提出すること。	安保
日付					

教科書	プロセス・コンサルテーション (エドガー・E・シャイン) Hamric & Hanson's Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	安保寛明 (研究室15)
備考	

授業科目	健康政策・関係法特論		科目英語表記	Advanced health policy and related laws		
職名、担当教員氏名	教授 菅原 京子 准教授 鈴木 育子 准教授 今野 浩之					
科目責任者氏名	菅原 京子					
学内連絡教員氏名						
分野	看護学分野	学年	博士前期1年			
科目区分	専門支持	必修・選択の別	選択			
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位	
授業概要	少子高齢社会における今日の健康課題と健康政策、保健医療専門職としての健康政策への参画について、幅広くかつ深く学ぶ。					
到達目標	1-1.今日の健康の概念の到達点について、WHO専門委員会の観点から説明できる。 1-2.現代公衆衛生の思想的基盤について理解し、今後の公衆衛生の展望を説明できる。 2-1.諸外国の保健医療の状況に関する情報収集の方法を理解し、今日的話題を述べることができる。 2-2.少子高齢社会における今日の健康課題と健康政策について説明できる。 生活習慣病と健康増進対策、感染症対策、疾病対策、医療提供体制と医療保険制度、介護保険制度 3. 上記の健康政策の展開における保健医療専門職の役割について考察できる。					
成績評価方法	・プレゼンテーション作成資料（40%）：作成資料が到達目標2-1と2-2に関して達成しているかを判断基準とします。資料作成の分担等については、授業のなかで指示します。 ・討議への参加（60%）：討議の場面で、自分の意見を述べているか、他者の意見を踏まえて発展的に思考できているか、を判断基準とします。					
成績評価基準	到達目標 1-1～3 特に優れている：内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる 優れている：内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる 良好である：内容を理解し、論理的に正しく概ね説明できる 最低限の到達：一部不十分な所もあるが、ある程度説明できる 目標に到達していない：説明できない					
授業形式	講義、演習					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	1.オリエンテーション、健康・公衆衛生(1)	法律・通知の読み方、健康の概念と健康支援	講義、討議	健康格差について調べてみる	菅原、今野
2	2.健康・公衆衛生(2)	思想的基盤	講義、討議	健康格差について調べてみる	菅原、今野
3	3.健康・公衆衛生(2)	思想的基盤	講義、討議	健康格差について調べてみる	菅原、今野
4	4.保健医療の国際比較	医療保障制度、保健医療サービス	講義、討議	各国の状況の確認	菅原、今野
5	4.保健医療の国際比較	家族介護について、看護職の教育規制	講義、討議	各国の状況の確認	菅原、今野
6	5.少子高齢社会における今日の健康課題と健康政策(1)	①健康課題：育児、がん、生活習慣病を少子高齢社会、貧困、孤立の観点から分析する ②生活習慣病と健康増進対策、感染症対策、疾病対策、医療提供体制と保健医療活動	講義、討議	自己の経験の振り返り	菅原、今野
7	5.少子高齢社会における今日の健康課題と健康政策(1)	①健康課題：育児、がん、生活習慣病を少子高齢社会、貧困、孤立の観点から分析する ②生活習慣病と健康増進対策、感染症対策、疾病対策、医療提供体制と保健医療活動	プレゼンテーション、討議	プレゼンテーション準備	菅原、今野
8	5.少子高齢社会における今日の健康課題と健康政策(1)	①健康課題：育児、がん、生活習慣病を少子高齢社会、貧困、孤立の観点から分析する ②生活習慣病と健康増進対	プレゼンテーション、討議	プレゼンテーション準備	菅原、今野

		策、感染症対策、疾病対策、医療提供体制と保健医療活動			
9	5.少子高齢社会における今日の健康課題と健康政策(1)	①健康課題：育児、がん、生活習慣病を少子高齢社会、貧困、孤立の観点から分析する ②生活習慣病と健康増進対策、感染症対策、疾病対策、医療提供体制と保健医療活動	プレゼンテーション、討議	プレゼンテーション準備	菅原、今野
10	6.少子高齢社会における今日の健康課題と健康政策(2)	①健康課題：介護を少子高齢社会、貧困、孤立の観点から分析する ②日本の医療保険制度、介護保険制度と保健医療活動	講義、討議	自己の経験の振り返り	鈴木
11	6.少子高齢社会における今日の健康課題と健康政策(2)	①健康課題：介護を少子高齢社会、貧困、孤立の観点から分析する ②日本の医療保険制度、介護保険制度と保健医療活動	プレゼンテーション、討議	プレゼンテーション準備	鈴木
12	6.少子高齢社会における今日の健康課題と健康政策(2)	①健康課題：介護を少子高齢社会、貧困、孤立の観点から分析する ②日本の医療保険制度、介護保険制度と保健医療活動	プレゼンテーション、討議	プレゼンテーション準備	鈴木
13	6.少子高齢社会における今日の健康課題と健康政策(2)	①健康課題：介護を少子高齢社会、貧困、孤立の観点から分析する ②日本の医療保険制度、介護保険制度と保健医療活動	プレゼンテーション、討議	プレゼンテーション準備	鈴木
14	7.まとめ	健康政策の展開における保健医療専門職の役割	討議	全体のまとめ	菅原、今野
15	7.まとめ	健康政策の展開における保健医療専門職の役割	討議	全体のまとめ	菅原、今野
日付					

教科書	
参考書	多田羅浩三：現代公衆衛生の思想的基盤（日本公衆衛生協会） 松本勝明・加藤智章：医療制度改革－ドイツ・フランス・イギリスの比較分析と日本への示唆（旬報社） 自治体国際化協会（CLAIR）及び日本貿易振興機構（JETRO）の発行資料 国民衛生の動向（厚生統計協会） 衛生行政大要改訂版（日本公衆衛生協会）
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1／博士前期2／博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菅原京子：研究室7 kugawara@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野浩之：研究室17 hkonno@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	原著講読特論	科目英語表記	Advanced reading research papers			
職名、担当教員氏名	教授 梶 理和子					
科目責任者氏名	梶 理和子					
学内連絡教員氏名						
分野	看護学分野／理学療法学分野／作業療法学分野	学年	博士前期1年			
科目区分	専門支持	必修・選択の別	選択			
授業形態	講義／演習	開講時期	通年	単位数	2単位	
授業概要	この授業は、履修生が関心のある英語論文を持ち寄り、読解、ディスカッションする形式で、英語表現や論文の内容について解釈したり、自分の考察を説明したりすることで、その研究に対する理解を深めることを目的としています。その際に、英文の構造を理解しながらスピーディに内容を把握するために、英文を語順のとおり読む（サイト・トランスレーションや、スラッシュ [チャンク] リーディング等と呼ばれる）方法を用います。					
到達目標	1. 英文の構造を理解し、正確に発音しながら素早く読みくることができる 2. 一文にとらわれずに、前後の文脈から意味・内容を理解できる 3. 研究内容や最新の動向等について検索、情報収集をおこなうことができる					
成績評価方法	1. 英文読解（演習）40% [到達目標1で評価] 2. 英文および論文の解釈（演習）30% [到達目標2で評価] 3. 考察の説明やディスカッション（演習）30% [到達目標3で評価]					
成績評価基準	評価	A	B	C	D	F
	到達目標					
	1	英文を正しく発音し、適切にサイト・トランスレーションできる	英文を音読しながら、適切にサイト・トランスレーションできる	発音、サイト・トランスレーションの正確性にやや欠ける	発音、サイト・トランスレーションが不正確である	英文の構造が理解できない。単語の読み方（発音）を調べず、読めない
	2	文脈を踏まえて、正確に英文・論文を理解できる	文脈を意識して、英文・論文を理解できる	ある程度、文脈を意識して英文・論文を読める	文脈を意識して英文・論文を読めないことが多い	文脈を意識して英文・論文を読むことができない
3	明確な視点に基づく自分の考察をわかりやすく説明し、議論できる	自分なりの考察を説明し、議論できる	ある程度、自分の考察を述べ、議論できる	感想めいたコメントにとどまり、双方向の議論とならない	論文と関係のない感想が、根拠なく述べられる	
授業形式	遠隔授業（ただし、履修者の希望によっては対面授業に変更します）					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	オリエンテーション	授業概要の説明	履修生のスケジュール（読解、ディスカッションする論文紹介の担当順）等を計画する	シラバス確認 論文検索・収集	梶
2	論文1を読む(1)	英文読解および内容把握	一部の（理解しにくい）文章をサイト・トランスレーションし、英文や論文の内容を文脈を踏まえて確認する	英文や内容の詳細を確認し、自分なりの問題意識を持って読解し、曖昧な箇所に対しても解釈を試みる	梶
3	論文1を読む(2)	考察・ディスカッション	論文に対する考察を述べ、ディスカッションを通じて研究に対する多様な視点を得る	関心のある問題の研究動向を調べ、関連する概念や思想（の歴史的・哲学的・社会的・政治的背景等）を確認し、研究の対象や視点を広げる	梶

4	論文2を読む(1)	英文読解および内容把握	一部の(理解しにくい)文章をサイト・トランスレーションし、英文や論文の内容を文脈を踏まえて確認する	英文や内容の詳細を確認し、自分なりの問題意識を持って読解し、曖昧な箇所に対しても解釈を試みる	梶
5	論文2を読む(2)	考察・ディスカッション	論文に対する考察を述べ、ディスカッションを通じて研究に対する多様な視点を得る	関心のある問題の研究動向を調べ、関連する概念や思想(の歴史的・哲学的・社会文化的・政治的背景等)を確認し、研究の対象や視点を広げる	梶
6	論文3を読む(1)	英文読解および内容把握	一部の(理解しにくい)文章をサイト・トランスレーションし、英文や論文の内容を文脈を踏まえて確認する	英文や内容の詳細を確認し、自分なりの問題意識を持って読解し、曖昧な箇所に対しても解釈を試みる	梶
7	論文3を読む(2)	考察・ディスカッション	論文に対する考察を述べ、ディスカッションを通じて研究に対する多様な視点を得る	関心のある問題の研究動向を調べ、関連する概念や思想(の歴史的・哲学的・社会文化的・政治的背景等)を確認し、研究の対象や視点を広げる	梶
8	論文4を読む(1)	英文読解および内容把握	一部の(理解しにくい)文章をサイト・トランスレーションし、英文や論文の内容を文脈を踏まえて確認する	英文や内容の詳細を確認し、自分なりの問題意識を持って読解し、曖昧な箇所に対しても解釈を試みる	梶
9	論文4を読む(2)	考察・ディスカッション	論文に対する考察を述べ、ディスカッションを通じて研究に対する多様な視点を得る	関心のある問題の研究動向を調べ、関連する概念や思想(の歴史的・哲学的・社会文化的・政治的背景等)を確認し、研究の対象や視点を広げる	梶
10	論文5を読む(1)	英文読解および内容把握	一部の(理解しにくい)文章をサイト・トランスレーションし、英文や論文の内容を文脈を踏まえて確認する	英文や内容の詳細を確認し、自分なりの問題意識を持って読解し、曖昧な箇所に対しても解釈を試みる	梶
11	論文5を読む(2)	考察・ディスカッション	論文に対する考察を述べ、ディスカッションを通じて研究に対する多様な視点を得る	関心のある問題の研究動向を調べ、関連する概念や思想(の歴史的・哲学的・社会文化的・政治的背景等)を確認し、研究の対象や視点を広げる	梶
12	論文6を読む(1)	英文読解および内容把握	一部の(理解しにくい)文章をサイト・トランスレーションし、英文や論文の内容を文脈を踏まえて確認する	英文や内容の詳細を確認し、自分なりの問題意識を持って読解し、曖昧な箇所に対しても解釈を試みる	梶
13	論文6を読む(2)	考察・ディスカッション	論文に対する考察を述べ、ディスカッションを通じて研究に対する多様な視点を得る	関心のある問題の研究動向を調べ、関連する概念や思想(の歴史的・哲学的・社会文化的・政治的背景等)を確認し、研究の対象や視点を広げる	梶
14	論文7を読む(1)	英文読解および内容把握	一部の(理解しにくい)文章をサイト・トランスレーションし、英文や論文の内容を文脈を踏まえて確認する	英文や内容の詳細を確認し、自分なりの問題意識を持って読解し、曖昧な箇所に対しても解釈を試みる	梶
15	論文7を読む(2)	考察・ディスカッション	論文に対する考察を述べ、ディスカッションを通じて研究に対する多様な視点を得る	関心のある問題の研究動向を調べ、関連する概念や思想(の歴史的・哲学的・社会文化的・政治的背景等)を確認し、研究の対象や視点を広げる	梶

日付

隔週木曜日6限目(予定)

日程変更可能

教科書	
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期 1 / 博士前期 2 / 博士前期 3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	梶 理和子：研究室25 rkazi@yachts.ac.jp
備考	授業予定日の訂正 月曜日 5 限（日程調整可能）です

授業科目	生体機能看護学特論	科目英語表記	Advanced physiological nursing		
職名、担当教員氏名	教授 沼澤さとみ 准教授 半田 直子				
科目責任者氏名	沼澤さとみ				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門支持	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	人間は生命を維持するために、環境の変化に応じた恒常性を保つ機能をもつことを理解し、環境や生活習慣、ケアによる健康状態の変化を考える				
到達目標	1. 運動による身体的変化と健康状態の変化を説明できる 2. 食事による身体的変化と健康状態の変化を説明できる 3. 感情による身体的変化と健康状態の変化を説明できる 4. ケアによる身体的変化と健康状態の変化、およびケアの効果を自律神経活動の点から説明できる				
成績評価方法	ディスカッション・プレゼンテーション 70%：目標1～4 課題またはレポート (30%) 目標4				
成績評価基準	到達目標1～4について、ディスカッション・プレゼンテーション、課題またはレポートをもとに以下の基準で評価する 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない				
授業形式	対面授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	恒常性と自律神経活動	人間の生命維持のための恒常性と環境との関係	講義	学習課題について、図書や文献を読み、重要事項をまとめる	沼澤 半田
2	恒常性と自律神経活動	人間の生命維持のための恒常性と環境との関係	講義	学習課題について、図書や文献を読んで重要事項をまとめる	沼澤 半田
3	運動と自律神経活動	運動による人間の身体と健康状態の変化を、自律神経活動の変化から理解する	学習内容に関する文献を読みディスカッション	学習課題について、図書や文献を読んで重要事項をまとめる	沼澤 半田
4	運動と自律神経活動	運動による人間の身体と健康状態の変化を、自律神経活動の変化から理解する	学習内容に関する文献を読みディスカッション	学習課題について、図書や文献を読んで重要事項をまとめる	沼澤 半田
5	運動と自律神経活動	運動による人間の身体と健康状態の変化を、自律神経活動の変化から理解する	学習内容に関する文献を読みディスカッション	学習課題について、図書や文献を読んで重要事項をまとめる	沼澤 半田
6	食事と自律神経活動	食事による人間の身体と健康状態の変化を、自律神経活動の変化から理解する	学習内容に関する文献を読みディスカッション	学習課題について、図書や文献を読んで重要事項をまとめる	沼澤 半田
7	食事と自律神経活動	食事による人間の身体と健康状態の変化を、自律神経活動の変化から理解する	学習内容に関する文献を読みディスカッション	学習課題について、図書や文献を読んで重要事項をまとめる	沼澤 半田
8	食事と自律神経活動	食事による人間の身体と健康状態の変化を、自律神経活動の変化から理解する	学習内容に関する文献を読みディスカッション	学習課題について、図書や文献を読んで重要事項をまとめる	沼澤 半田
9	感情・ストレスと自律神経活動	感情・ストレスによる人間の身体と健康状態の変化を、自	学習内容に関する文献を読みディスカッション	学習課題について、図書や文献を読んで重要事項をまとめる	沼澤 半田

		自律神経活動の変化から理解する			
10	感情・ストレスと自律神経活動	感情・ストレスによる人間の身体と健康状態の変化を、自律神経活動の変化から理解する	学習内容に関する文献を読みディスカッション	学習課題について、図書や文献を読んで重要事項をまとめる	沼澤半田
11	感情・ストレスと自律神経活動	感情・ストレスによる人間の身体と健康状態の変化を、自律神経活動の変化から理解する	学習内容に関する文献を読みディスカッション	学習課題について、図書や文献を読んで重要事項をまとめる	沼澤半田
12	ケアと自律神経活動	ケアによる人間の身体と健康状態の変化を、自律神経活動の変化から理解する	学習内容に関する文献を読みディスカッション（または実験）	学習課題について、図書や文献を読んで重要事項をまとめる	沼澤半田
13	ケアと自律神経活動	ケアによる人間の身体と健康状態の変化を、自律神経活動の変化から理解する	学習内容に関する文献を読みディスカッション（または実験）	学習課題について、図書や文献を読んで重要事項をまとめる	沼澤半田
14	ケアと自律神経活動	ケアによる人間の身体と健康状態の変化を、自律神経活動の変化から理解する	学習内容に関する文献を読みディスカッション（または実験）	学習課題について、図書や文献を読んで重要事項をまとめる	沼澤半田
15	ケアと自律神経活動	ケアによる人間の身体と健康状態の変化を、自律神経活動の変化から理解する	学習内容に関する文献を読みディスカッション（または実験）	学習課題について、図書や文献を読んで重要事項をまとめる	沼澤半田
日付					

教科書	教科書は特になし
参考書	必要に応じて資料を配付し、参考図書や文献は随時紹介します
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	沼澤さとみ : 研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp 半田 直子 : 研究室3 nhanda@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	臨床動作解析学特論	科目英語表記	Advanced clinical motion analysis		
職名、担当教員氏名	教授 加藤 浩 准教授 南澤 忠儀				
科目責任者氏名	加藤 浩				
学内連絡教員氏名					
分野	理学療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門支持	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	① 運動力学（床反力，モーメント）および筋電図の基礎を学ぶ。 ② 生体力学や筋電図に関する英語の文献抄読を行う。 ③ 動作分析装置や床反力，筋電図などの機器を用いた客観的な動作分析手法を学ぶ。				
到達目標	① 床反力，モーメント，筋電図の客観的な動作分析方法の意義とその限界について説明することができる。 ② 歩行動作時の関節モーメントや，運動制御理論からみた日常動作の分析方法について説明することができる。				
成績評価方法	課題レポート：100% [到達目標 ①，②を評価]				
成績評価基準	到達目標 ①，② 特に優れている：課題内容の理解，論理構成，表現，国内外雑誌の引用が十分整ったレポートを作成することができる。 優れている：課題内容の理解，論理構成，表現，国内外雑誌の引用が概ね整ったレポートを作成することができる。 良好である：課題内容の理解，論理構成，表現，国内外雑誌の引用がある程度整ったレポートを作成することができる。 最低限の到達：課題内容の理解，論理構成，表現，国内外雑誌の引用が一部不十分だが，レポートを作成することができる。 目標に到達していない：レポートの作成ができない。				
授業形式	授業は遠隔授業で行います。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	臨床動作解析学概論①	・運動力学解析に必要な基本事項に関する講義を行う。	講義（聴講型）	予習課題 事前に配布する資料を熟読し，知識の整理をしておくこと。 復習課題 授業の内容を振り返り，指摘された事項や理解が不十分だったところについて，さらに調べレポートを提出する。	加藤 浩
2	臨床動作解析学概論②	・筋電図解析に必要な基本事項に関する講義を行う。	講義（聴講型）	予習課題 事前に配布する資料を熟読し，知識の整理をしておくこと。 復習課題 授業の内容を振り返り，指摘された事項や理解が不十分だったところについて，さらに調べレポートを提出する。	加藤 浩
3	臨床動作解析学の研究（運動力学解析）①	・運動力学解析を用いた文献を抄読し発表する。 ・論文の内容について議論する。	プレゼンテーション 講義（議論型）	予習課題 各自で興味のある文献を選び，論文を熟読し整理した発表スライドを準備すること。 復習課題 授業の内容を振り返り，指摘された事項や理解が不十分だったところについて，さらに調べレポートを提出する。	加藤 浩
4	臨床動作解析学の研究（運動力学解析）②	・運動力学解析を用いた文献を抄読し発表する。 ・論文の内容について議論する。	プレゼンテーション 講義（議論型）	予習課題 各自で興味のある文献を選び，論文を熟読し整理した発表スライドを準備すること。	加藤 浩

				<p>復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べレポートを提出する。</p>	
5	臨床動作解析学の研究 (運動力学解析) ③	<ul style="list-style-type: none"> ・運動力学解析を用いた文献を抄読し発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義 (議論型)	<p>予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。</p> <p>復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べレポートを提出する。</p>	加藤 浩
6	臨床動作解析学の研究 (運動力学解析) ④	<ul style="list-style-type: none"> ・運動力学解析を用いた文献を抄読し発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義 (議論型)	<p>予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。</p> <p>復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べレポートを提出する。</p>	加藤 浩
7	臨床動作解析学の研究 (筋電図学解析) ①	<ul style="list-style-type: none"> ・筋電図学解析を用いた文献を抄読し発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義 (議論型)	<p>予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。</p> <p>復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べレポートを提出する。</p>	加藤 浩
8	臨床動作解析学の研究 (筋電図学解析) ②	<ul style="list-style-type: none"> ・筋電図学解析を用いた文献を抄読し発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義 (議論型)	<p>予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。</p> <p>復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べレポートを提出する。</p>	加藤 浩
9	臨床動作解析学の研究 (筋電図学解析) ③	<ul style="list-style-type: none"> ・筋電図学解析を用いた文献を抄読し発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義 (議論型)	<p>予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。</p> <p>復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べレポートを提出する。</p>	加藤 浩
10	臨床動作解析学の研究 (筋電図学解析) ④	<ul style="list-style-type: none"> ・筋電図学解析を用いた文献を抄読し発表する。 ・論文の内容について議論する。 	プレゼンテーション 講義 (議論型)	<p>予習課題 各自で興味のある文献を選び、論文を熟読し整理した発表スライドを準備をすること。</p> <p>復習課題 授業の内容を振り返り、指摘された事項や理解が不十分だったところについて、さらに調べレポートを提出する。</p>	加藤 浩
11	定常歩行運動と関節モーメント	定常歩行中の関節モーメントデータを参照して分析する	講義	<p>予習課題 事前に配布する資料を熟読し、知識の整理をしておくこと。</p>	南澤 忠儀

				復習課題 課題レポートを提出する。	
12	応用歩行中の関節モーメント①	応用歩行中の関節モーメントデータを参照して分析する	講義	予習課題 事前に配布する資料を熟読し、知識の整理をしておくこと。 復習課題 課題レポートを提出する。	南澤 忠儀
13	応用歩行運動中の関節モーメント②	応用歩行中の関節モーメントデータを参照して分析する	講義	予習課題 事前に配布する資料を熟読し、知識の整理をしておくこと。 復習課題 課題レポートを提出する。	南澤 忠儀
14	運動制御理論をもとにした日常動作の分析方法①	日常生活動作における動作障害の把握と理解のための分析方法について学習する	講義	予習課題 事前に配布する資料を熟読し、知識の整理をしておくこと。 復習課題 課題レポートを提出する。	南澤 忠儀
15	運動制御理論をもとにした日常動作の分析方法②	日常生活動作における動作障害の把握と理解のための分析方法について学習する	講義	予習課題 事前に配布する資料を熟読し、知識の整理をしておくこと。 復習課題 課題レポートを提出する。	南澤 忠儀
日付					

教科書	
参考書	授業に必要な資料は、適宜、配布、または指示する。 月城慶一、他訳：観察による歩行分析（医学書院） Jessica Rose：Human Walking (Lippincott Williams & Wilkins) 筋骨格系のキネシオロジー。嶋田智明（監訳）。医歯薬出版
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	加藤 浩：研究室36 hikato@yachts.ac.jp 南澤 忠儀：研究室18 tminamisawa@yachts.ac.jp
備考	講義日程は、受講者の状況（一般・社会人）によって変更可能ですので、事前にご相談ください。

授業科目	発達障がい理学療法学特論	科目英語表記	Advanced physical therapy for developmental disabilities		
職名、担当教員氏名	教授 渡部 潤一				
科目責任者氏名	渡部 潤一				
学内連絡教員氏名					
分野	理学療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門支持	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習／実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	運動発達障がい児者に理学療法を実施する上で、理学療法介入がどのような影響を与えるのか科学的な検証を探っていくために、対象者の身体機能を中心に客観的に評価する方法論について研究する。 また、運動発達障がいのある成人の身体機能の評価と成長期に必要な介入および今後老年期に対応すべき内容について考察する。				
到達目標	①対象者の臨床像を把握しその変化を客観的に示すための方法について、現行の諸検査の特徴を理解する。 ②成人運動発達障がい者への評価の適用と理学療法を考察できる。 ③運動発達障がい児者の理学療法介入効果の科学的検証方法を考察できる。				
成績評価方法	レポート課題（約50%）・・・到達目標1・2・3、 発言や質問・演習など授業への参加度（約50%）・・・到達目標1・2・3から、総合的に評価する。				
成績評価基準	到達目標に関して、下記の理解度によって評価する。 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない				
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	正常運動発達と運動発達障がい児者の発達特性①	各学生に運動発達評価に関して課題レポートを科し、レポート内容について討議を展開する	主に講義とレポート発表で実施する。講義で定義や概念等について解説を行った後、事例または文献例に基づいたグループディスカッションを実施し討論する	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
2	正常運動発達と運動発達障がい児者の発達特性②	各学生に運動発達評価に関して課題レポートを科し、レポート内容について討議を展開する	主に講義とレポート発表で実施する。講義で定義や概念等について解説を行った後、事例または文献例に基づいたグループディスカッションを実施し討論する	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
3	運動発達障がい児者の評価①	各学生に運動発達評価に関して課題レポートを科し、レポート内容について討議を展開する	主に講義とレポート発表で実施する。講義で定義や概念等について解説を行った後、事例または文献例に基づいたグループディスカッションを実施し討論する	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
4	運動発達障がい児者の評価②	各学生に運動発達評価に関して課題レポートを科し、レポート内容について討議を展開する	主に講義とレポート発表で実施する。講義で定義や概念等について解説を行った後、事例または文献例に基づいたグループディスカッションを実施し討論する	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
5	成人運動発達障がい者の評価と理学療法①	各学生に運動発達評価に関して課題レポートを科し、レポート内容について討議を展開する	主に講義とレポート発表で実施する。講義で定義や概念等について解説を行った後、事例または文献例に基づいたグループディスカッションを実施し討論する	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一

6	成人運動発達障がい者の評価と理学療法②	各学生に運動発達評価に関して課題レポートを科し、レポート内容について討議を展開する	主に講義とレポート発表で実施する。講義で定義や概念等について解説を行った後、事例または文献例に基づいたグループディスカッションを実施し討論する	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
7	小児理学療法分野における臨床データの解釈①	各学生に運動発達評価に関して課題レポートを科し、レポート内容について討議を展開する	主に講義とレポート発表で実施する。講義で定義や概念等について解説を行った後、事例または文献例に基づいたグループディスカッションを実施し討論する	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
8	小児理学療法分野における臨床データの解釈②	各学生に運動発達評価に関して課題レポートを科し、レポート内容について討議を展開する	主に講義とレポート発表で実施する。講義で定義や概念等について解説を行った後、事例または文献例に基づいたグループディスカッションを実施し討論する	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
9	小児理学療法分野における治療法の有効性の検討①	各学生に運動発達評価に関して課題レポートを科し、レポート内容について討議を展開する	主に講義とレポート発表で実施する。講義で定義や概念等について解説を行った後、事例または文献例に基づいたグループディスカッションを実施し討論する	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
10	小児理学療法分野における治療法の有効性の検討②	各学生に運動発達評価に関して課題レポートを科し、レポート内容について討議を展開する	主に講義とレポート発表で実施する。講義で定義や概念等について解説を行った後、事例または文献例に基づいたグループディスカッションを実施し討論する	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
11	小児理学療法分野における治療法の有効性の検討③	各学生に運動発達評価に関して課題レポートを科し、レポート内容について討議を展開する	主に講義とレポート発表で実施する。講義で定義や概念等について解説を行った後、事例または文献例に基づいたグループディスカッションを実施し討論する	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
12	小児発達運動障害の治療方法の討議①	各学生に運動発達評価に関して課題レポートを科し、レポート内容について討議を展開する	主に講義とレポート発表で実施する。講義で定義や概念等について解説を行った後、事例または文献例に基づいたグループディスカッションを実施し討論する	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
13	小児発達運動障害の治療方法の討議②	各学生に運動発達評価に関して課題レポートを科し、レポート内容について討議を展開する	主に講義とレポート発表で実施する。講義で定義や概念等について解説を行った後、事例または文献例に基づいたグループディスカッションを実施し討論する	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
14	小児発達運動障害の治療方法の討議③	各学生に運動発達評価に関して課題レポートを科し、レポート内容について討議を展開する	主に講義とレポート発表で実施する。講義で定義や概念等について解説を行った後、事例または文献例に基づいたグループディスカッションを実施し討論する	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
15	まとめ	各学生に運動発達評価に関して課題レポートを科し、レポート内容について討議を展開する	PC プレゼンテーションなどを作成する。	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一

日付

教科書	授業で使用する資料は、配布します
-----	------------------

参考書	参考図書は随時紹介します
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	渡部潤一：研究室39 jwatanabe@yachts.ac.jp
備考	実施日程は、受講者と相談して決定します

授業科目	理学療法臨床推論特論	科目英語表記	Advanced clinical reasoning in physical therapy		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 若山 佐一				
科目責任者氏名	若山 佐一				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野／理学療法学分野／作業療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門支持	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	<p>理学療法士はどのような思考過程を経て治療戦略を考えているのでしょうか？ 情報収集では何を重視しどのような順序で進めていくのか？ 臨床経験のほとんどない学生や新人理学療法士の場合はどのようにしているのか？経験者ではどうか？ 理学療法と看護や作業療法、あるいは医師の診断、治療の意志決定過程とは？ これらの疑問を出発点として、受講者による演習を中心に理学療法(士)の臨床推論過程、意志決定過程を文献的、体験的に分析し、研究方法、教育方法等についても論考します。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法学の臨床推論に関する概念、理論を理解し、臨床・教育・研究の視点から論議できる ・臨床実習指導もしくは指導された経験において、臨床推論過程の指導を分析し発表できる ・自身の臨床実践例を一例とりあげ、臨床推論過程から分析し発表できる ・関連する和洋最新文献を1編探索し、わかりやすく紹介できる 				
成績評価方法	授業中の質疑応答（30％）演習時の発表内容・資料・指導状況（40％）、演習内容の討論への参加状況（30％）から総合評価する。				
成績評価基準	<p>特に優れている（A）；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている（B）； 根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である（C）； 根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達（D）； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない（F）；説明できない</p>				
授業形式	<p>5月～8月の月1回の集中授業、演習内容の順番は受講生と相談のうえ、変更することもありうる 第1回～4回対面授業；講義 第5回～8回対面授業；演習(課題発表と質疑応答) 第9回～11回対面授業；演習(課題発表と質疑応答) 第12回～15回対面授業；演習(課題発表と質疑応答)</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等に関する概念・理論、教育・研究方法	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等に関する概念・理論、教育や研究例の理解	講義および質疑応答	・事前にメール等で配布した授業資料等を読み、質疑応答の準備を行う	若山
2	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等に関する概念・理論、教育・研究方法	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等に関する概念・理論、教育や研究例の理解	講義および質疑応答		若山
3	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等に関する概念・理論、教育・研究方法	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等の教育や研究例の理解	講義および質疑応答		若山
4	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等に関する概念・理論、教育・研究方法	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等の教育や研究例の理解	講義および質疑応答		若山
5	臨床実習教育における臨床推論、臨床的意思決定とその過程	臨床実習教育における臨床推論、臨床的意思決定やその過程について自身の経験を振り返り理解する	臨床実習教育者もしくは被教育者としての自身の経験から臨床推論、臨床的意思決定やその過程の教育について振り返り発表、質疑応答を行う	発表の準備、発表スライドの作成、発表スライドは事前に添削指導を経ていること 臨床実習関係資料が手元にない場合、事前に資料収集や整理、分析が必要となる	若山、受講生

6	臨床実習教育における臨床推論、臨床的意思決定とその過程	臨床実習教育における臨床推論、臨床的意思決定やその過程について自身の経験を振り返り理解する	臨床実習教育者もしくは被教育者としての自身の経験から臨床推論、臨床的意思決定やその過程の教育について振り返り発表、質疑応答を行う		若山、受講生
7	臨床実習教育における臨床推論、臨床的意思決定とその過程	臨床実習教育における臨床推論、臨床的意思決定やその過程について自身の経験を振り返り理解する	臨床実習教育者もしくは被教育者としての自身の経験から臨床推論、臨床的意思決定やその過程の教育について振り返り発表、質疑応答を行う		若山、受講生
8	臨床実習指導や教育における臨床推論、意思決定とその過程	臨床実習教育における臨床推論、臨床的意思決定やその過程について自身の経験を振り返り理解する	臨床実習教育者もしくは被教育者としての自身の経験から臨床推論、臨床的意思決定やその過程の教育について振り返り発表、質疑応答を行う		若山、受講生
9	自験症例の臨床推論、臨床的意思決定とその過程	自験症例について臨床推論、臨床的意思決定とその過程の観点から症例をまとめることでこれらについて理解する	自身で経験した症例について、臨床推論、臨床的意思決定とその過程の観点から症例報告を行う	発表の準備、発表スライドの作成、発表スライドは事前に添削指導を経ていること 過去の症例ならば、情報収集しておく必要がある。現在進行形の症例ならば、いつまでと期間を決めてまとめておく必要がある。いずれの症例も症例発表の了解を得ておくこと	若山、受講生
10	自験症例の臨床推論、臨床的意思決定とその過程	自験症例について臨床推論、臨床的意思決定とその過程の観点から症例をまとめることでこれらについて理解する	自身で経験した症例について、臨床推論、臨床的意思決定とその過程の観点から症例報告を行う		若山、受講生
11	自験症例の臨床推論、臨床的意思決定とその過程	自験症例について臨床推論、臨床的意思決定とその過程の観点から症例をまとめることでこれらについて理解する	自身で経験した症例について、臨床推論、臨床的意思決定とその過程の観点から症例報告を行う		若山、受講生
12	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等に関する最新の和洋文献の紹介	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等に関する最新の和洋文献からこれらの研究例について理解する	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等に関する最新の和洋文献を読み、発表、質疑応答を行う	文献探索、選択は早めに行い了承を得ておくこと 発表の準備、発表スライドの作成、発表スライドは事前に添削指導を経ていること	若山、受講生
13	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等に関する最新の和洋文献の紹介	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等に関する最新の和洋文献からこれらの研究例について理解する	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等に関する最新の和洋文献を読み、発表、質疑応答を行う		若山、受講生
14	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等に関する最新の和洋文献の紹介	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等に関する最新の和洋文献からこれらの研究例について理解する	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等に関する最新の和洋文献を読み、発表、質疑応答を行う		若山、受講生
15	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等に関する最新の和洋文献の紹介	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等に関する最新の和洋文献からこれらの研究例について理解する	臨床推論、臨床的意思決定やその過程等に関する最新の和洋文献を読み、発表、質疑応答を行う		若山、受講生

日付

6. 5. 25 (土)2-5
※10:30~17:30
6. 7. 6 (土)2-5
※10:30~17:30
6. 7. 27 (土)2-5
※10:30~17:30
6. 8. 31 (土)2-5
※10:30~17:30

教科書	特に指定なし
参考書	Editors: Joy Higgs, Gail M Jensen, Stephen Loftus, Nicole Christensen: Clinical Reasoning in the Health Professions,4th ed, Page532, 2019 Elsevier

	藤本修平、竹林崇編：PTOTSTのための臨床に活かすエビデンスと意思決定の考え方、医学書院、2020 その他、授業時に提示します。
ディプロマ・ ポリシーとの 関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある 教員	
実務経験をい かした教育内 容	
教員の連絡先	若山 佐一（弘前大学名誉教授） wakayama@cna.ne.jp 09026065258
備考	

授業科目	精神障がい作業療法学特論	科目英語表記	Advanced occupational therapy for psychological disabilities		
職名、担当教員氏名	講師 佐々木 学				
科目責任者氏名	佐々木 学				
学内連絡教員氏名					
分野	作業療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門支持	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	通年	単位数	2単位
授業概要	精神疾患でみられる病的兆候の計算論的再現などを通じて、精神疾患への理解を深める				
到達目標	精神疾患の発症機序において基底核などの皮質下構造が影響を与えていることについての、若干の知見を持つことができる講義中の演習の中で提示される計算課題を遂行することができる				
成績評価方法	レポート提出「計算論的アプローチの意義について」によって成績判定を行う				
成績評価基準	A テーマについて十分に理解しており、発展的意見もみられる B テーマについて十分に理解しているが、自己の意見も述べられている C テーマについて概ね理解しているが、自己の意見に欠ける D テーマについて理解不足、誤った認識がみられる E 著しく内容が劣る、論旨が理解できない、無関連のことを述べている				
授業形式	遠隔授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	研究の方向性と講義全体の要旨	研究の方向性と講義全体の要旨について解説する	講義	講義内容を復習するとともに、ネットなどで関連項目を検索し、学習するとよい	佐々木
2	抗精神病薬の変遷と作用部位1	抗精神病薬の変遷と作用部位について、主として第一世代抗精神病薬について概説する	講義	講義内容を復習するとともに、ネットなどで関連項目を検索し、学習するとよい	佐々木
3	抗精神病薬の変遷と作用部位2	第二、三世代抗精神病薬と認知症治療薬について述べる	講義	講義内容を復習するとともに、ネットなどで関連項目を検索し、学習するとよい	佐々木
4	Hodgkin-Huxley model	Hodgkin-Huxley modelについて述べる	講義、演習	講義内容を復習するとともに、ネットなどで関連項目を検索し、学習するとよい	佐々木
5	微分方程式の解	微分方程式の解法について述べる	講義、演習	Matlab/Octaveで実行してみる ベクトル化演算	佐々木
6	基底核の計算モデル	基底核の計算モデルについて述べる	講義	講義内容を復習するとともに、ネットなどで関連項目を検索し、学習するとよい	佐々木
7	視床の計算モデル	視床の計算モデル、特にSomato Sensory Gatingについて述べる	講義	講義内容を復習するとともに、ネットなどで関連項目を検索し、学習するとよい	佐々木
8	精度保証付き数値計算	精度保証付き数値計算について述べる	講義	INTLABや講義内容を復習するとともに、ネットなどで関連項目を検索し、学習するとよい	佐々木
9	受容体モデル	受容体モデルについて述べる	講義	講義内容を復習するとともに、ネットなどで関連項目を検索し、学習するとよい	佐々木
10	自然現象のモデル化	自然現象のモデル化について概説する	講義	講義内容を復習するとともに、ネットなどで関連項目を	佐々木

				検索し、学習するとよい	
11	モデルを構成・計算する基本的数学1	テイラー展開、解析解、近似解などについて概説する	講義	講義内容を復習するとともに、ネットなどで関連項目を検索し、学習するとよい	佐々木
12	モデルを構成・計算する基本的数学2	オイラーの定理、ベイズの定理	講義	講義内容を復習するとともに、ネットなどで関連項目を検索し、学習するとよい	佐々木
13	その他の疾患・部位の計算モデル	その他の疾患・部位の計算モデルについて述べる	講義	講義内容を復習するとともに、ネットなどで関連項目を検索し、学習するとよい	佐々木
14	計算機のハードウェアの基礎的知識	計算機のハードウェアの基礎的知識について述べる	講義	講義内容を復習するとともに、ネットなどで関連項目を検索し、学習するとよい	佐々木
15	まとめ	総括する	講義	講義内容を復習するとともに、ネットなどで関連項目を検索し、学習するとよい	佐々木

日付

後日連絡

教科書	講義では論文を使用します
参考書	熊沢逸夫, 学習とニューラルネットワーク, 2004, 森北出版株式会社 仙波純一, ストール精神薬理学エッセンシャルズ, 2023, メディカル・サイエンス・インターナショナル Leslie L. Iversen et al, Dopamin Handbook, 2010, Oxford Heinz Steiner and Kuei Y. Tseng, Handbook of Basal Ganglia Structure and Function, 2010, Elsevier V. Srinivasa Chakravarthy and Ahmed A. Moustafa, Computational Neuroscience Models of the Basal Ganglia, 2018, Springer (講義で使用される論文は、これらとは別です)
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐々木 msasaki@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	身体障がい作業療法学特論	科目英語表記	Advanced occupational therapy for physical disabilities		
職名、担当教員氏名	准教授 千葉 登				
科目責任者氏名	千葉 登				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野／理学療法学分野／作業療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門支持	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	身体障がい領域におけるスポーツ（パラスポーツ）の発展に寄与できるような人材育成も障がいの者のQOL向上に必要であり、本特論は、パラスポーツの基本的知識やそれを用いた現場での実践について教授する。				
到達目標	1. パラスポーツの現状・問題点・課題について理解する。 2. パラスポーツについて他者へ説明ができる。				
成績評価方法	講義、グループディスカッション 80%：到達目標1 課題のプレゼンテーション20%：到達目標2				
成績評価基準	<p>到達目標1 パラスポーツの現状・問題点・課題について理解する。 特に優れている：適切で十分な根拠をふまえて理解し、論理的に質疑ができる 優れている；根拠をふまえて理解し、論理的に質疑ができる 良好である；根拠を用いてある程度理解し、論理的に質疑ができる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度理解し、質疑ができる 目標に到達していない；理解に乏しい、質疑がないもしくはその内容が論理的ではない</p> <p>到達目標2 パラスポーツについて他者へ説明ができる。 特に優れている：適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明ができる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明ができる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明ができる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明ができる 目標に到達していない；説明できない</p>				
授業形式	対面授業または遠隔授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	オリエンテーション 障がい者スポーツの歴史①	障がい者スポーツがどのように発展してきたか	講義・グループディスカッション	事前配布資料による事前学習	千葉
2	障がい者スポーツの歴史②	障がい者スポーツがどのように発展してきたか	講義・グループディスカッション	事前配布資料による事前学習	千葉
3	障がい者スポーツの現状①	障がい者スポーツの現状について	講義・グループディスカッション	事前配布資料による事前学習	千葉
4	障がい者スポーツの現状②	障がい者スポーツの現状について	講義・グループディスカッション	事前配布資料による事前学習	千葉
5	障がい者スポーツの課題①	障がい者スポーツのおかれている課題について	講義・グループディスカッション	事前配布資料による事前学習	千葉
6	障がい者スポーツの課題②	障がい者スポーツのおかれている課題について	講義・グループディスカッション	事前配布資料による事前学習	千葉
7	障がい者スポーツの未来①	障がい者スポーツがどのように発展していくことが必要か	講義・グループディスカッション	事前配布資料による事前学習	千葉
8	障がい者スポーツの未来②	障がい者スポーツがどのように発展していくことが必要か	講義・グループディスカッション	事前配布資料による事前学習	千葉
9	障がい者スポーツの実際①	障がい者スポーツがどのように行われているのか、競技ごとの特性について	講義・グループディスカッション	事前配布資料による事前学習	千葉

10	障がい者スポーツの実際②	障がい者スポーツがどのように行われているのか、競技ごとの特性について	講義・グループディスカッション	事前配布資料による事前学習	千葉
11	障がい者スポーツ選手のサポート①	障害別の選手のサポート方法について	講義・グループディスカッション	事前配布資料による事前学習	千葉
12	障がい者スポーツ選手のサポート②	障害別の選手のサポート方法について	講義・グループディスカッション	事前配布資料による事前学習	千葉
13	障がい者スポーツの理解（応用編）①	これまでの講義をもとに学生自身で障がい者を対象としたニュースポーツを考案しプレゼンテーションする。	学生のプレゼンテーション・グループディスカッション	障がい者を対象としたニュースポーツを考案し、プレゼンテーション用資料を作成する。	千葉
14	障がい者スポーツの理解（応用編）②	これまでの講義をもとに学生自身で障がい者を対象としたニュースポーツを考案しプレゼンテーションする。	学生のプレゼンテーション・グループディスカッション	障がい者を対象としたニュースポーツを考案し、プレゼンテーション用資料を作成する。	千葉
15	最近のトピックスとまとめ	最近のトピックスの提供と総まとめ	講義・グループディスカッション	事前配布資料による事前学習	千葉

日付

教科書	なし（資料を事前に配布します。）
参考書	なし（資料を事前に配布します。）
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	千葉 登：研究室22 nchiba@yachts.ac.jp
備考	講義方法は遠方からの履修者がいる場合には遠隔授業（ZOOM）にて行います。 授業日程に関しては、履修者と相談の上決定致します。

授業科目	高齢期作業療法学特論	科目英語表記	Advanced occupational therapy for geriatric dysfunction		
職名、担当教員氏名	教授 外川 佑				
科目責任者氏名	外川 佑				
学内連絡教員氏名					
分野	作業療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門支持	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	高齢期障がい有する対象者の自動車運転関連の研究を中心に、多変量解析等を用いた臨床研究、疫学研究などの論文を読み、研究デザインやアプローチ方法を学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期障がいの特性を説明できる。 ・高齢期障がい有する対象者の評価法および研究手法について説明できる。 ・高齢期障がい有する対象者への臨床・疫学研究のデザインやアプローチを理解できる。 ・高齢期障がい有する対象者の作業療法研究の臨床的意義を説明できる。 				
成績評価方法	プレゼンテーション（50%）、討議への参加度（50%）により評価する。				
成績評価基準	プレゼンテーションおよび討議への参加度の結果を合算し、到達目標に対する達成度に応じてA:100～90、B:89～80、C:79～70、D:69～60、F59～0で評価する				
授業形式	原則、オンラインで実施する。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	高齢期障がいの特性	教員は授業項目に関する最新の論文を事前に配布する。学生は配布された論文をもとに、プレゼンテーションを行う。論文および学生んプレゼンテーションをもとに討議を行い、高齢期障がいに関する理解を深める。	講義・演習	事前に配布された資料をよく読み、理解してから授業に臨むこと。	外川
2	高齢期障がいの特性	教員は授業項目に関する最新の論文を事前に配布する。学生は配布された論文をもとに、プレゼンテーションを行う。論文および学生んプレゼンテーションをもとに討議を行い、高齢期障がいに関する理解を深める。	講義・演習	事前に配布された資料をよく読み、理解してから授業に臨むこと。	外川
3	臨床・疫学研究の研究デザイン	教員は授業項目に関する最新の論文を事前に配布する。学生は配布された論文をもとに、プレゼンテーションを行う。論文および学生んプレゼンテーションをもとに討議を行い、高齢期障がいに関する理解を深める。	講義・演習	事前に配布された資料をよく読み、理解してから授業に臨むこと。	外川
4	臨床・疫学研究の研究デザイン	教員は授業項目に関する最新の論文を事前に配布する。学生は配布された論文をもとに、プレゼンテーションを行う。論文および学生んプレゼンテーションをもとに討議を行い、高齢期障がいに関する理解を深める。	講義・演習	事前に配布された資料をよく読み、理解してから授業に臨むこと。	外川

5	高齢期障がい有する対象者への臨床・疫学研究	教員は授業項目に関する最新の論文を事前に配布する。学生は配布された論文をもとに、プレゼンテーションを行う。論文および学生プレゼンテーションをもとに討論を行い、高齢期障がいに関する理解を深める。	講義・演習	事前に配布された資料をよく読み、理解してから授業に臨むこと。	外川
6	高齢期障がい有する対象者への臨床・疫学研究	教員は授業項目に関する最新の論文を事前に配布する。学生は配布された論文をもとに、プレゼンテーションを行う。論文および学生プレゼンテーションをもとに討論を行い、高齢期障がいに関する理解を深める。	講義・演習	事前に配布された資料をよく読み、理解してから授業に臨むこと。	外川
7	高齢期障がい有する対象者に対する評価・アウトカム指標	教員は授業項目に関する最新の論文を事前に配布する。学生は配布された論文をもとに、プレゼンテーションを行う。論文および学生プレゼンテーションをもとに討論を行い、高齢期障がいに関する理解を深める。	講義・演習	事前に配布された資料をよく読み、理解してから授業に臨むこと。	外川
8	高齢期障がい有する対象者に対する評価・アウトカム指標	教員は授業項目に関する最新の論文を事前に配布する。学生は配布された論文をもとに、プレゼンテーションを行う。論文および学生プレゼンテーションをもとに討論を行い、高齢期障がいに関する理解を深める。	講義・演習	事前に配布された資料をよく読み、理解してから授業に臨むこと。	外川
9	高齢者の自動車運転中止に関連するアウトカム	教員は授業項目に関する最新の論文を事前に配布する。学生は配布された論文をもとに、プレゼンテーションを行う。論文および学生プレゼンテーションをもとに討論を行い、高齢期障がいに関する理解を深める。	講義・演習	事前に配布された資料をよく読み、理解してから授業に臨むこと。	外川
10	高齢者の自動車運転中止に関連するアウトカム	教員は授業項目に関する最新の論文を事前に配布する。学生は配布された論文をもとに、プレゼンテーションを行う。論文および学生プレゼンテーションをもとに討論を行い、高齢期障がいに関する理解を深める。	講義・演習	事前に配布された資料をよく読み、理解してから授業に臨むこと。	外川
11	統計ソフトRを用いた分析の実践①	教員は授業項目に関する最新の論文を事前に配布する。学生は配布された論文をもとに、プレゼンテーションを行う。論文および学生プレゼンテーションをもとに討論を行い、高齢期障がいに関する理解を深める。	講義・演習	事前に配布された資料をよく読み、理解してから授業に臨むこと。	外川
12	統計ソフトRを用いた分析の実践①	教員は授業項目に関する最新の論文を事前に配布する。学生は配布された論文をもとに、プレゼンテーションを行う。論文および学生プレゼン	講義・演習	事前に配布された資料をよく読み、理解してから授業に臨むこと。	外川

		ーションをもとに討論を行い、高齢期障がいに関する理解を深める。			
13	統計ソフトRを用いた分析の実践②	教員は授業項目に関する最新の論文を事前に配布する。学生は配布された論文をもとに、プレゼンテーションを行う。論文および学生んプレゼンテーションをもとに討論を行い、高齢期障がいに関する理解を深める。	講義・演習	事前に配布された資料をよく読み、理解してから授業に臨むこと。	外川
14	統計ソフトRを用いた分析の実践②	教員は授業項目に関する最新の論文を事前に配布する。学生は配布された論文をもとに、プレゼンテーションを行う。論文および学生んプレゼンテーションをもとに討論を行い、高齢期障がいに関する理解を深める。	講義・演習	事前に配布された資料をよく読み、理解してから授業に臨むこと。	外川
15	学習状況の確認と振り返り	教員は授業項目に関する最新の論文を事前に配布する。学生は配布された論文をもとに、プレゼンテーションを行う。論文および学生んプレゼンテーションをもとに討論を行い、高齢期障がいに関する理解を深める。	講義・演習	事前に配布された資料をよく読み、理解してから授業に臨むこと。	外川

日付

後日連絡

教科書	授業の度毎に資料を配布する。
参考書	参考図書は随時紹介する。
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	外川 佑： 研究室28 tsotokawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	生活援助工学特論	科目英語表記	Advanced life support and assistive technology		
職名、担当教員氏名	教 授 佐藤 寿晃 非常勤講師 鈴木 亮二				
科目責任者氏名	佐藤 寿晃				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野／理学療法学分野／作業療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門支持	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	日常生活に援助を必要とする対象者は、中枢神経障がい、運動器障がいなど種々の原因に基づいた人々で、生後から生涯を閉じる年齢までに関係する。 本科目では、理学・作業療法や看護の実践に必要な最新の人間工学の知見と研究に関する知識を学び、対象者の日常生活援助について考える形式を展開する。				
到達目標	様々な障がいを有する対象者に対して 1.人間工学的観点から日常生活の援助について考えることができる。 2. 人間発達学の観点から日常生活の援助について考えることができる。				
成績評価方法	プレゼンテーション70%（取り組み内容とその成果で評価する） ディスカッションへの参加度30%（人間工学、発達学的観点から日常生活に関すること）				
成績評価基準	達成目標1、2に対して 特に優れている； 到達目標を大きく超えて優秀である。 優れている； 到達目標を超えて優秀である。 良好である； 望ましい到達目標に達している 最低限の到達； 最低限の到達目標には達している 目標に到達していない； 到達目標を下回る				
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	人間工学的観点から日常生活の援助Ⅰ	身体機能障害者に対する日常生活の援助（総論）	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤、鈴木
2	人間工学的観点から日常生活の援助Ⅱ	身体機能障害者に対する日常生活の援助の実例（各論）	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤、鈴木
3	人間発達学の観点から日常生活の援助Ⅰ	人間発達学の観点から日常生活の援助（総論）	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤、鈴木
4	人間発達学の観点から日常生活の援助Ⅱ	発達学の観点から日常生活の援助実例（各論）	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤、鈴木
5	福祉機器・用具の実例Ⅰ	移動機器、移動支援工学	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤、鈴木
6	福祉機器・用具の実例Ⅱ	コミュニケーション機器、発話支援工学、コミュニケーション発達支援工学	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤、鈴木
7	福祉機器・用具の実例Ⅲ	聴覚・視覚障害用機器、聴覚・視覚支援工学	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤、鈴木
8	福祉機器・用具の実例Ⅳ	基本生活支援機器（排泄、入浴など）、基本生活支援工学	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤、鈴木
9	生活支援におけるニーズとシーズⅠ	生活支援におけるニーズとシーズとは（総論）	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤、鈴木
10	生活支援におけるニーズとシーズⅡ	生活支援におけるニーズとシーズとは（各論） グループワーク	講義・演習	講義終了後に復習してください。	佐藤、鈴木
11	生活支援におけるニーズとシーズⅢ	生活支援におけるニーズとシーズ（各論） グループワーク	講義・演習	講義終了後に復習してください。	佐藤、鈴木

12	医療専門職として生活援助工学の応用Ⅰ	課題提示（テーマ）に対して、情報収集、プレゼンテーションの準備をする。	各自、情報収集する	情報収集とプレゼンテーション準備	佐藤、鈴木
13	医療専門職として生活援助工学の応用Ⅱ	課題提示（テーマ）に対して、情報収集、プレゼンテーションの準備をする。	情報収集、プレゼンテーション準備	情報収集、プレゼンテーション準備する	佐藤、鈴木
14	医療専門職として生活援助工学の応用Ⅲ	課題提示（テーマ）に対してプレゼンテーションする。	演習、グループワーク	講義終了後に復習してください。	佐藤、鈴木
15	医療専門職として生活援助工学の応用Ⅳ（まとめ）	発表した内容について、参加者で討議する。	演習。グループワーク	講義終了後に復習してください。	佐藤、鈴木

日付

教科書	必要に応じてプリント配布する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐藤寿晃：研究室37 tsato@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	地域リハビリテーション学特論	科目英語表記	Advanced community-based rehabilitation		
職名、担当教員氏名	准教授 鈴木 由美 准教授 丹野 克子				
科目責任者氏名	鈴木 由美				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野／理学療法学分野／作業療法学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門支持	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	心身に障がいを持つ人々とどまらず、健康な人へのヘルスプロモーション活動まで視点を広げ、看護師・理学療法士・作業療法士のかかわりの中から専門職の役割を明らかにし、「質の高い地域生活」「地域づくり」「健康づくり」「自立の重視」「セルフマネジメントの重視」「エンパワメントの促進」を目指すための方策を学習する。				
到達目標	1. 地域における対象（地域全体・個人）への支援計画を立案できる。 2. 地域における専門職と住民の協働について理解できる。 3. 予防の側面から、地域における包括的ケアを学習できる。				
成績評価方法	生活障がいの分析、地域ケアシステムのあり方、多職種連携のあり方を講義の中でディスカッションする。 講義内でのディスカッション・演習への参加度（20％） 到達目標 1. 2. 3. を評価 問題の捉え方（20％） 到達目標 1. 2. 3. を評価 理解度（20％） 到達目標 1. 2. 3. を評価 レポート課題（40％） 到達目標 1. 2. 3. を評価				
成績評価基準	<p>到達目標1. 地域における対象（地域全体・個人）への支援計画を立案できる。</p> <p>特に優れている : 地域特性を活用しながら、個人への支援計画を立案できる。 優れている : 地域特性を鑑みながら、個人への支援計画を立案できる。 良好である : 地域特性の一部を理解した上で、個人への支援計画を立案できる。 最低限の到達 : 地域を視点に置きながら、個人への支援計画を立案できる。 目標に達していない : 地域への配慮を省いても、個人への支援計画を立案することができない。</p> <p>到達目標2. 地域における専門職と住民の協働について理解できる。</p> <p>特に優れている : 地域における専門職が持つ役割とその連携を踏まえて、住民の協働について説明できる。 優れている : 地域における専門職が持つ役割を考慮しながら、住民の協働について説明できる。 良好である : 地域における専門職と住民の協働について一通り説明できる。 最低限の到達 : 地域における専門職と住民の協働について、不完全ながら説明できる。 目標に達していない : 地域における専門職への理解が低く、かつ住民との協働について説明できない。</p> <p>到達目標3. 予防の側面から、地域における包括的ケアを学習できる。</p> <p>特に優れている : 地域生活におけるリスクファクターを踏まえて、予防の側面から、地域における包括的ケアを一通り説明できる。 優れている : 地域生活を想定した上で、予防の側面から、地域における包括的ケアを一通り説明できる。 良好である : 予防の側面から、地域における包括的ケアを一通り説明できる。 最低限の到達 : 不完全ながら、予防の視点を入れて、地域における包括的ケアを一通り説明できる。 目標に達していない : 地域生活における予防の概念が理解できず、地域における包括的ケアと結び付けることができない。</p>				
授業形式	対面（内容によっては遠隔授業もあり）				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	地域リハビリテーションと地域包括ケア・共生社会	地域リハビリテーションと地域包括ケア・共生社会（医療の視点から）	講義	授業前後に参考となる文献の検索および抄読	鈴木由美
2	地域リハビリテーションと地域包括ケア・共生社会	地域リハビリテーションと地域包括ケア・共生社会（保健と福祉の視点から）	講義	授業前後に参考となる文献の検索および抄読	丹野克子
3	地域包括ケア・共生社会を目指す協働	地域包括ケア、共生社会とは何か	講義・討論	授業前後に参考となる文献の検索および抄読	丹野克子
4	地域包括ケア・共生社会を目指す協働	地域包括ケア・共生社会における多職種連携を学ぶ	講義・討論	授業前後に参考となる文献の検索および抄読	丹野克子

5	地域包括ケア・共生社会を目指す協働	地域包括ケア・共生社会における専門職と住民等のインフォーマル資源との連携のあり方を学ぶ。	講義・討論	授業前後に参考となる文献の検索および抄読	丹野克子
6	地域包括ケア・共生社会を目指す協働	・地域包括ケア・共生社会を目指す個別支援計画を作成する。 ・地域包括ケア・共生社会を目指す地域計画を作成する。	演習	授業前後に参考となる文献の検索および抄読	丹野克子
7	地域リハビリテーションと健康増進・介護予防	地域リハビリテーションと健康増進・介護予防（制度面）	講義・討論	授業前後に参考となる文献の検索および抄読	丹野克子
8	地域リハビリテーションと健康増進・介護予防	地域リハビリテーションと健康増進・介護予防（事例）	演習	授業前後に参考となる文献の検索および抄読	丹野克子
9	生活行為向上マネジメント	生活行為向上マネジメントの概念を学習する	講義	授業前後に参考となる文献の検索および抄読	鈴木由美
10	生活行為向上マネジメント	生活行為向上マネジメントの概念を学習する	講義	授業前後に参考となる文献の検索および抄読	鈴木由美
11	生活行為向上マネジメント	模擬事例を生活行為向上マネジメントを演習し、その特徴を理解する	講義・演習	授業前後に参考となる文献の検索および抄読	鈴木由美
12	重度コミュニケーション障がい者への支援	重度コミュニケーション障がい者への支援方法を検討する	講義・演習	授業前後に参考となる文献の検索および抄読	鈴木由美
13	重度コミュニケーション障がい者に対する支援	重度コミュニケーション障がい者への支援方法を検討する	講義・演習	授業前後に参考となる文献の検索および抄読	鈴木由美
14	重度コミュニケーション障がい者に対する支援	視線入力装置（オリヒメ）の体験	講義・演習	授業前後に参考となる文献の検索および抄読	鈴木由美
15	重度コミュニケーション障がい者に対する支援	視線入力装置（オリヒメ）の体験	講義・演習	授業前後に参考となる文献の検索および抄読	鈴木由美

日付

教科書	授業内で紹介する
参考書	授業内で紹介する
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1／博士前期2／博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	鈴木由美 yusuzuki@yachts.ac.jp 30番研究室 丹野克子 ktanno@yachts.ac.jp 6番研究室
備考	